岩手県平泉町文化財調査報告書第143集

特別史跡　無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

２０２３
令和５年３月

岩手県県南広域振興局
土木部一関土木センター
平泉町教育委員会

岩手県平泉町文化財調査報告書第143集
特別史跡　無量光院跡第32・42次発掘調査報告書
一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査
令和５年３月
岩手県県南広域振興局土木部一関土木センター
平泉町教育委員会

岩手県平泉町文化財調査報告書第143集

特別史跡　無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

無量光院跡全景（東から：2018年５月15日撮影）

無量光院跡遠景（東から：2022年４月30日撮影）

42次　北区断面１－２（北西から）

42次　北区SD１断面（北西から）

序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶏山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧観自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年(1189)九月十七日条の「寺塔已下注文」に、無量光院跡は奥州藤原氏三代秀衡が宇治平等院を模して建立したことと併せ、藤原氏の政庁「平泉館」との位置関係が記されています。

無量光院跡は、大正11年に国の史跡に指定されました。昭和27年には、文化財保護委員会(現文化庁)が発掘調査を実施し、『吾妻鏡』の記載が裏付けられるとともに宇治平等院との類似性・相違点が明らかになりました。その調査成果から、昭和30年には特別史跡に指定されています。

本報告書は県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝工事に先立つ事前調査の内容を収録したものです。調査の結果、平成26年度の32次調査では現在の県道脇から近代の道路側溝を、平成30年度の42次調査では無量光院造営時の整地層を確認しています。

本書が広く活用され、埋蔵文化財保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査・報告書作成にあたり岩手県県南広域振興局をはじめ、地域住民の方々、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に対し深く感謝申し上げます。

令和５年３月

平泉町教育委員会

教育長　吉　野　新　平

例　　言

1、本書は県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝工事に伴う発掘調査成果を収録したものである。調査は岩手県教育委員会の指導・調整を経て、岩手県県南広域振興局から委託を受けた平泉町教育委員会が実施した。

2、調査期間及び調査面積は以下の通りである。

次数	年　度	調査期間	調査面積	調査担当
32次	平成26年度	平成26年11月９日～12月12日	27㎡	島原　弘征
42次	平成30年度	平成31年２月８日～３月26日	20㎡	鈴木江利子・島原　弘征

3、調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立地内である。

4、発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

（１）平成26年度

平泉町教育委員会

教　育　長　岩渕　実

平泉文化遺産センター

所　長　及川　司

主任主査　髙橋国博　主任文化財調査員　菅原計二

主　査　菅原　学　主任文化財調査員　鈴木江利子

主査文化財調査員　島原弘征　主　事　佐藤孝紀

（２）平成30年度

平泉町教育委員会

教　育　長　岩渕　実

平泉文化遺産センター

所　長　及川　司

所長補佐　髙橋国博　主査文化財調査員　島原弘征

主任主査文化財調査員　菅原計二　文化財調査員　鈴木博之

主任主査文化財調査員　鈴木江利子　主　事　那須駿也

（３）令和４年度

平泉町教育委員会

教　育　長　吉野新平

平泉文化遺産センター

館　長　髙橋国博

館長補佐　島原弘征　主　任　鈴木理世

主任主査文化財調査員　鈴木江利子　文化財調査員　藤田崇志

文化財調査員　鈴木博之　主　任　千葉　徹

主　任　佐々木成淳　主任文化財調査員　菅原計二

5、本書については島原弘征と鈴木江利子が分担して執筆した。

6、調査の基準点は平成15年に無量光院内に設置した基準点（平面直角座標Ｘ系に準拠）をもとに調査員が打設した。

7、土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。

8、調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会、平泉町内遺跡調査報告会等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。

9、発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）

文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

10、出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。

目　　次

Ⅰ　調査にいたる経過……1
Ⅱ　位置と環境……1
　1　無量光院跡の位置……1
　2　無量光院跡の現状……3
　3　調査履歴……3
Ⅲ　無量光院跡第32次調査の概要……9
　1　調査目的……9
　2　調査方法……9
　3　調査概要……9
　4　出土遺物……11
Ⅳ　無量光院跡第42次調査の概要……33
　1　調査目的……33
　2　調査方法……33
　3　調査概要……33
　4　出土遺物……34
Ⅴ　工事立会調査の概要……44
Ⅵ　まとめ……46

表　目　次

第１表　無量光院跡調査履歴……3
第２表　無量光院跡第32次調査調査区一覧……10
第３表　かわらけ観察表……24
第４表　陶磁器観察表……24
第５表　かわらけ観察表……34
第６表　中国産磁器観察表……35
第７表　国産陶器観察表……35
第８表　土壁観察表……35
第９表　羽口観察表……35
第10表　近世陶磁器観察表……35
第11表　金属製品観察表……35
第12表　鉄滓観察表……35
第13表　漆器観察表……35
第14表　種子観察表……35
第15表　石製品観察表……35
第16表　工事立会調査履歴……45

図　　版

第１図　平泉町の位置……1
第２図　周辺の遺跡分布図……2
第３図　無量光院跡遺構配置図……7
第４図　32次調査位置図（１）……12
第５図　32次調査位置図（２）……13
第６図　32次調査位置図（３）……14
第７図　32次調査位置図（４）……15
第８図　１・４・５区……16
第９図　６～８区……17
第10図　９～11区……18
第11図　12～14区……19
第12図　15～17区……20
第13図　18～20区……21
第14図　21～23区……22
第15図　24～26区……23
第16図　27区……24
第17図　32次調査出土遺物……24
第18図　42次調査北区……36
第19図　42次調査南区……37
第20図　42次調査出土遺物（１）……38
第21図　42次調査出土遺物（２）……39

写　真　図　版

写真図版１　１・４・５区……25
写真図版２　６～10区……26
写真図版３　８～10区……27
写真図版４　11～13区……28
写真図版５　14～17区……29
写真図版６　17～20区……30
写真図版７　20～23区……31
写真図版８　24～27区……32
写真図版９　42次調査北区（１）……40
写真図版10　42次調査北区（２）……41
写真図版11　42次調査南区……42
写真図版12　42次調査出土遺物……43

Ⅰ　調査にいたる経過

一般県道平泉停車場中尊寺線はＪＲ東北本線平泉駅から県道三日町瀬原線との交差点までの延長約1.4kmの県道で、通称中尊寺通りと呼ばれ平泉駅から中尊寺に向かう参道として位置づけられている。現在の国道４号（かつての国道４号平泉バイパス）が開通し通過交通が移行したことに伴い、歩行者優先の道路構造への変換を目的とした道路改良事業が計画され、それに伴う形で電線共同溝整備事業が計画された。当該県道は特別史跡無量光院跡を通過していることから、地下遺構の保全を担保するため特別史跡指定地内の事業予定箇所について内容確認調査を行いその成果を元に設計変更協議を行うこととなった。本線部分の調査は（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって平成24年度に行われており（26次）、護岸・池底・排水溝等が検出されている。本報告の調査は、本線から各家庭へ延びる引き込み線部分及び地上機設置予定箇所において、設計上情報が不足している箇所について内容確認調査を行うこととなり、前者は32次調査として後者は42次調査として実施したものである。

Ⅱ　位置と環境

１　無量光院跡の位置

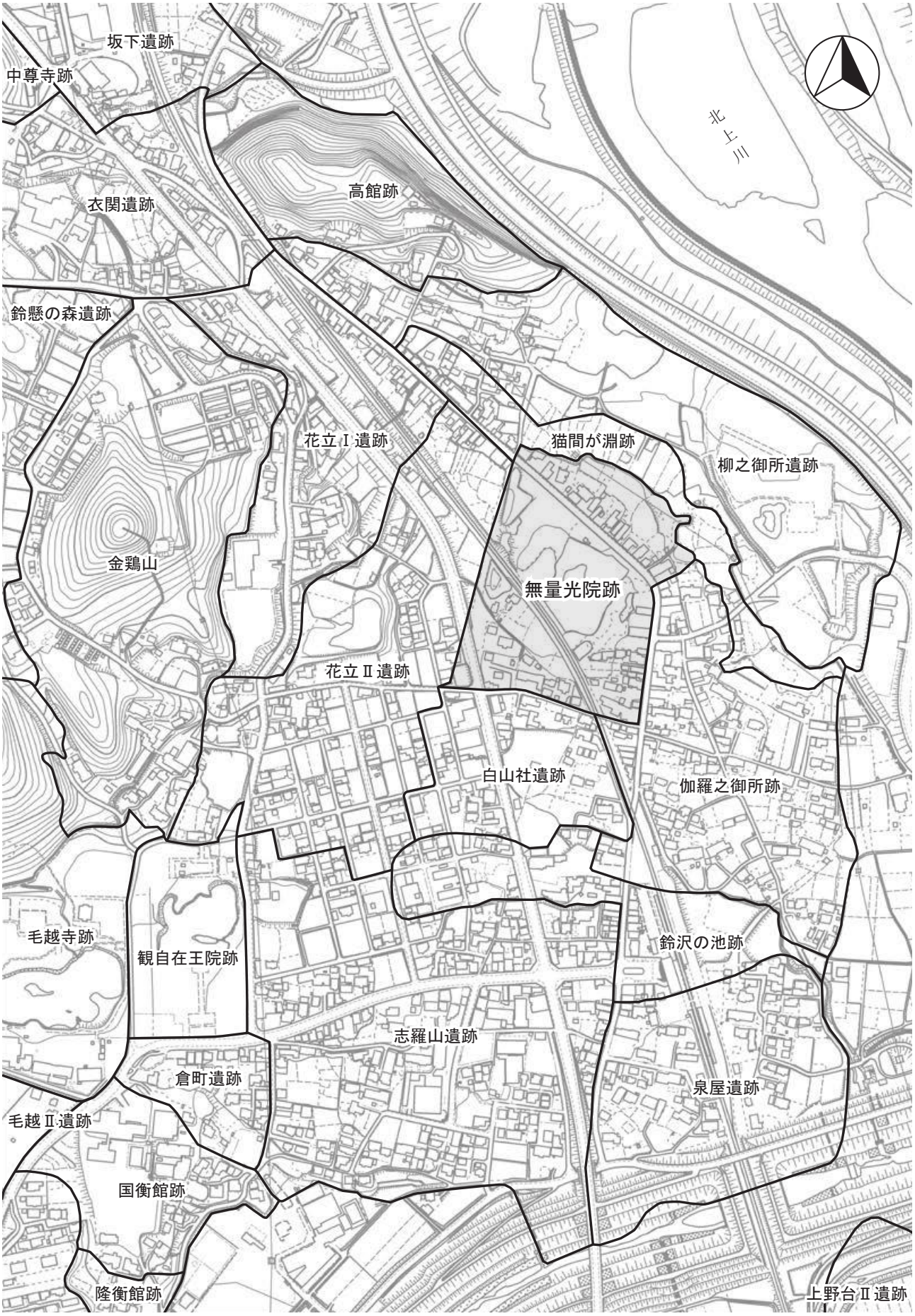
平泉町は、岩手県の南部に所在する人口約7,000人、面積約64平方kmの小さな町である。東側は束稲山（595.7ｍ）、音羽山（539ｍ）、観音山（325.2ｍ）が連なる北上山地、西側は奥羽山脈に続く標高100～200ｍ前後の丘陵地に囲まれ、中央部には北上川が南流し、その両側に田園地帯が広がっています。南側を一関市、北側を奥州市に接している。

第１図　平泉町の位置

平泉は、12世紀に奥州藤原氏の拠点として栄える一方、源頼朝によって1189年に滅亡する。その繁栄と滅亡の歴史は、1689年平泉を訪れた俳人の松尾芭蕉をはじめ、多くの文人たちを惹きつけ、数多くの詩歌を喚起する素材となっている。平成23年には町内に所在する５つの史跡名勝が「平泉―浄土を表す建築庭園及び考古学的遺跡群―」として世界遺産登録された。

その構成資産の一つとなっている無量光院跡は北上川右岸の町の中心域に所在する。遺跡の中心は、ＪＲ東北本線平泉駅から北西約500ｍ、周辺には水田や住宅があり、鉄道や県道が横断している。

遺跡の北側では猫間が淵跡を挟み奥州藤原氏の政庁「平泉館」と考えられる柳之御所遺跡が位置し、東側は『吾妻鏡』において奥州藤原氏三代秀衡の「常の居所」である加羅御所があったとされる伽羅之御所跡、南側は白山社遺跡と接している。西側には花立Ⅰ・Ⅱ遺跡が隣接し、その西方には、金鶏山が位置している。金鶏山は無量光院跡阿弥陀堂の背面（西方）にあたり、山頂は阿弥陀堂や東島の建物の中心軸の延長線上にあたり、基準の山となっている。なお、山頂には経塚があり、昭和初期の発掘で経筒とその外容器である12世紀前半の渥美壺が出土している。



第２図　周辺の遺跡分布図

2　無量光院跡の現状

平泉は平安時代末の約100年間、東北地方を勢力下に置いた奥州藤原氏の拠点であり、当時の痕跡を多く残している。その一つである無量光院跡は、奥州藤原氏三代目の秀衡が建立した寺院跡である。

無量光院跡は、南側を除いた三方を土塁で囲まれ、その内側には梵字が池と呼ばれる池跡と、大中小三つの島が（中島・東島・北小島）設けられている。また、西側は土塁の外側に沿って堀が設けられており、現在でもその痕跡を見ることができる。境内の規模は、鉄道と県道によって３分割されている関係で分かりにくいが、南北約320ｍ、東西約240ｍを測る。

昭和27年に文化財保護委員会（現在の文化庁）が行った発掘調査によって、中島には阿弥陀堂の跡が、東島から３棟の建物跡が確認された。建物は失われたものの、島の礎石は当時の建物の位置や規模を示し、周辺の休耕田部分は「梵字が池」と呼ばれる池の跡として平坦地を形成し、当時の面影を伝えていた。地形から推定される池の広さは東西約140ｍを測る。しかし、一見すると旧耕田の中に島状の高まりが大小二つ、東西に並んだ状況でしかなく、説明がないと来訪者にはわかりにくい状態であった。

無量光院の中心である中島と東島は、毛越寺の所有地である。池の跡や周辺は寺領ではなく、住宅や水田として使用されていたことから、管理団体である平泉町は鉄道と県道に挟まれた中央部分の住宅地や水田を公有化し、平成24年度からは池跡部分を中心に整備工事を開始した。平成26年度には東島及びその周辺、同27年度には中島、28年度には北小島の整備が行われ、以前に比べて東島・北小島が視認しやすくなってきており、様相は変化してきている。

3　調査履歴

無量光院跡はこれまで、文化財保護委員会・岩手県教育委員会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め48回の調査が行われてきている。調査履歴は第１表に記したので参照願いたい。

第１表　無量光院跡調査履歴

次数	主　体	原　因	史跡指定地内	期　間	面積㎡	内　容
1	文化財保護委員会	内容確認	○	S270804 ～0903		・『吾妻鏡』により、宇治平等院を模し建立されたとの記述を裏付けた調査。 ・平等院との類似性、相違点が明確化。 ・本堂と翼廊の規模が明らかとなる。臨池式翼廊付阿弥陀堂、本堂の規模が平等院と類似。 ・本堂の東側の島（東島）で３棟の礎石建物を確認。
2	岩手県教育委員会	住宅増築	○			・現状変更（建物建替）に伴うトレンチ調査。 ・東岸と地業層を検出。
3	平泉町教育委員会	住宅増築	○	H040924 ～0930	6	・園池としての明確な遺構は検出されず。 ・地山傾斜面と灰色粘土質層は園池の可能性を残している。
4	平泉町教育委員会	駐車場造成	○	H061205 ～1226	55	・西側土塁と北側土塁が繋がっていた可能性を指摘。 ・北側土塁の北斜面の平場から、波板状凸凹を伴う12世紀後半の道路跡を検出。 ・井戸状遺構から多数のちゅう木が出土。 ・土塁版築層の構築年代を12世紀第３四半期後半から第４四半期前半と推定。
5	平泉町教育委員会	住宅改築		H100629 ～0729	190	・東側土塁版築層の基底部と思われる整地地業層を確認。時期は12世紀第3四半期後半。 ・猫間が淵跡の張り出し地形に向かう道路跡を確認。
6	平泉町教育委員会	車庫新築		H100817 ～0910	47	・塀跡１条、溝１条、土坑１基、柱穴58個を検出。
7	平泉町教育委員会	住宅改築		H101009 ～1125	300	・掘立柱建物１棟、柱穴列２条、特殊遺構２基、溝11条、土坑６基を検出。 ・特殊遺構とされた１基は、周溝状の溝で半円に区画された遺構。内部にこの遺構に付随すると思われる５個の柱穴が検出されており、宝樹に相当する遺構と考えられている。 ・もう１基の特殊遺構は、方形周溝に囲まれ、内部に壁柱穴を伴う方形の竪穴建物である。祭祀に関連した遺構と推定されている。
8	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H110402 ～0707	610	・北側土塁に相当する部分で、傾斜面を平坦化する整地層を確認。地業は深いところで約３ｍに及ぶ。 ・北側土塁北の犬走り状の部分から、幅約1.5ｍの石敷道路遺構を検出。縁石は頭大、内部は拳大。その上部を細礫で塞ぐ工法。
9	平泉町教育委員会	擁壁建設		H110715 ～0831	154	・７次調査の南側隣接地。同調査で検出された竪穴建物の南半を検出し、全容が明らかとなる。 ・他に掘立柱建物１棟、溝２条、土坑11基を検出。 ・竪穴建物は3.35×3.35ｍの隅丸方形、深さ0.35ｍを測る。内部に２×３間の壁柱穴を確認。また、竪穴建物は6.3×7.0ｍの隅丸方形状の周溝に囲まれている。周溝の規模は幅0.4m、深さ0.5ｍを測る。

次数	主　体	原　因	史跡指定地内	期　間	面積㎡	内　容
10	平泉町教育委員会	物置新築		H110901 ～1018	220	・土塁より古い溝１条と土坑２基を検出。 ・土塁の断面観察の結果、版築状に地山粘土を積み上げた状況を確認。 ・土塁下の旧表土層からロクロかわらけの一括廃棄遺構を検出。
11	平泉町教育委員会	駐車場造成		H120605 ～0825	350	・西側土塁の基底部を確認。 ・柱穴を検出。
12	平泉町教育委員会	内容確認	○	H141102 ～150328	932	・池跡が非常に浅く、遺物包含層がないことを確認。 ・池底を平坦にするための整地層を一部確認。 ・池底から遺構は確認されない。 ・東島は地山を掘り残したものであること、景石は根石等が確認されていないことから、直に設置されていた州浜の葺石と思われることを確認。
13	平泉町教育委員会	内容確認	○	H150513 ～1219	2,900	・東島の東の調査。 ・表土から20㎝下で地山（池底）を検出。遺物包含層は認められない。 ・ただし、北側に向かうにつれて若干深みを増す傾向が認められ、周辺に池尻の存在が予想されている。 ・中島（本堂跡）の東側（同正面）に南北方向に並列する２列の柱列（４個×２列）を検出するも、橋脚に関連するものではないと判断されている。 ・中島の北側から橋脚の抜き取り痕と思われる柱穴を検出。 ・中島の北西側で汀線の追跡を行う。周辺では礫は検出されていない。
14	平泉町教育委員会	住宅増築		H150723 ～0731	32	・無量光院跡の南辺に位置する。南側土塁、堀跡の存在が予想される地域である。土塁・堀跡は検出されず。
15	平泉町教育委員会	内容確認	○	H160910 ～1203	549	・13次に続き池尻の追跡調査を行うも、池尻は確認されず。 ・園池北西地域から、竪穴建物、溝、土坑、柱穴を検出。柱穴は建物を構成する柱穴の一部と推定される。柱穴どうしの重複はない。 ・周辺に整地層を確認。西側土塁の基底部と推定される。 ・中島（本堂）を中心に南北対称の位置から、第７次で確認された竪穴建物と類似する遺構を確認。ただし、周溝は検出されていない。 ・中島の北側、北翼廊西側礎石列の延長部で北側に延びる橋脚の柱穴を検出（南北柱間2.4m、東西柱間3.0m）。
16	平泉町教育委員会	物置建築		H161025 ～1124	36	・12世紀後半と推定される地業層を確認。 ・12世紀後半期以降と推定される建物を構成する柱穴の一部､溝､土坑を検出。 ・12世紀後半の瓦、かわらけ、陶器片、羽口が出土。 ・17世紀以降の溝２条、肥前産磁器が出土。
17	平泉町教育委員会	内容確認	○	H170613 ～1102	270	・本堂北側翼廊の延長線上に橋脚跡を検出（１×４間）。 ・橋脚跡の北側に小島（仮称：北小島）を検出。平等院との類似性がさらに補足される。 ・拳大の円礫が池底付近の埋土から多数出土。
18	平泉町教育委員会	内容確認	○	H180605 ～1204	800	・本堂西側から北側にかけての池の範囲が明らかになった。 ・池北岸と北小島とをつなぐように、土手状の高まりが設けられていることを確認。平等院との類似性がさらに補足された。 ・導水の濾過装置と推定される落ち込み遺構を検出した。 ・土塁状の高まりの下に板が埋設されていることを確認した。導水に関係する木樋の可能性も想定される。 ・池底、池岸に石は認められない。
19	平泉町教育委員会	内容確認	○	H190615 ～1110	700	・本堂北側の池の範囲が明らかになり、池の範囲が一部県道北側にまで及ぶ可能性が出てきた。 ・導水の可能性の高い溝跡を確認。 ・18次調査で確認した、板の追跡を行ったが、板の下部に掘り込み等の痕跡は認められなかった。 ・県道際で道路側溝と思われる近世の溝跡１条を確認。奥州道中に関連する溝と思われる。
20	平泉町教育委員会	内容確認	○	H200602 ～1031	700	・池跡の北東から東の汀線を検出し、池跡は現地形と異なり北に張り出して県道北側まで広がることが確認された。 ・県道より北側では溝や柱穴などの遺構を検出した。柱穴の中には整地以前のものもあり、無量光院以前から、何らかの土地利用されていたことが確認された。
21	平泉町教育委員会	住宅新築		H210512 ～0601	150	・周溝を伴う竪穴建物１棟、溝３条、柱穴30個を検出。 ・竪穴建物は、西側が調査区外のため全容は不明だが、南北3.35m、東西1.42mを測り、壁柱穴を伴っている。この竪穴建物の外側を幅31～86㎝、深さ６～12㎝を測る溝が円形状に巡っている。この竪穴建物は７次調査のものに類似しているが、周溝が円形状を呈している点が若干異なる。 ・周溝に区画された範囲は南北で約8.14mを測る。なお、東西方向は調査区外を含むため不明だが、確認した範囲で約４mを測る。
22	平泉町教育委員会	内容確認	○	H210615 ～1221	700	・池東側と南側の岸を確認した。 ・今年度までの調査で東西の岸を確認できたことから、無量光院跡の池の大きさは、東西約140mあることが確認された。また、池岸には石が葺かれていた様子はなく、池は浅いと思われる。 ・橋の痕跡は検出できなかったが、池底から用途・性格不明の掘り込みを検出した。 ・この掘り込みは幅2.8～3.5m、深さ20～30㎝あり、池底を整える際に埋め戻されたものと考えられるが、性格は不明である。
23	平泉町教育委員会	内容確認	○	H220621 ～1221	500	・本堂基壇周辺を巡る板石及び正面に敷かれた塼の広がりを確認し、再測量を行った。 ・ただし、北翼廊の一部で検出された板石を覆う基壇造成土の検証や塼の広がりの範囲確認及び東端の石列との関係の確認などが課題として残されている。 ・中島東端から舞台と考えられる柱跡が検出された。
24	平泉町教育委員会	内容確認	○	H230704 ～1228	235	・本堂基壇構造をおおよそ確認することができた。また、基壇表面には川原石を洲浜状に葺いていた。 ・「塼」の広がりは少なくとも東西方向2.7m、南北方向24m程あることを確認した。

次数	主　体	原　因	史跡指定地内	期　間	面積㎡	内　容
25	平泉町教育委員会	内容確認	○	H240720 ～1228	290	・昭和27年の１次調査で確認された東島に所在する礎石建物３棟の北半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。また、礎石建物より旧い掘立柱建物を検出したが、礎石及び根石の下に広がること及び南側調査区外に広がっていることから規模は不明である。 ・中島北側の池岸から、岬及び入江を確認した。 ・東島の岸は後世の削平を受けており、残存状況が不良であること、大型の景石の一部は現位置を保っていないことが確認された。
26	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター	内容確認	○	H240601 ～1205	1,390	・電線共同溝本線部分の内容確認調査。無量光院跡の北西端から東端にかけて細長く調査を行い、池跡とその排水路を検出し、西側土塁下に整地層が広がることを確認した。 ・池跡北西側の護岸及び堆積土の残存状況は良好で、池北西側の様相を把握することができた。
27	平泉町教育委員会	物置建替		H250520 ～0605	41	・無量光院跡南側の史跡外の調査。12世紀の溝跡２条と塀跡１列を検出したが、無量光院本体の軸線とは異なり、無量光院跡に関連した遺構かは不明。
28	平泉町教育委員会	内容確認	○	H250617 ～ H260314	300	・昭和27年の１次調査で確認された東島に所在する礎石建物４棟の南半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。 ・中島北側の池岸から、岬及び入江を検出し、規模・形状を確認した。
29	平泉町教育委員会	内容確認		H260317 ～0331	54	・西側土塁南側の史跡外の調査。同土塁の斜面部分を検出。
30	平泉町教育委員会	内容確認	○	H260623 ～1226	500	・東門調査区では、東門は検出されなかったが、表土下５㎝で12世紀の整地層を検出し、無量光院造営時に大規模に造営されていたことが確認された。整地層の下から無量光院跡造営以前と考えられる幅７ｍ、深さ１ｍの大溝を検出された。 ・北小島の大きさは東西15m、南北10.5m程あること、高さが少なくとも30㎝あることが確認された。
31	平泉町教育委員会	物置建替	○	H260623 ～0718	51	・無量光院跡の池（梵字が池）の北端部分の調査。 ・池底及び護岸の一部が検出された。護岸のラインは調査区北側に隣接する用水路（青線）と並行関係にあり、当時の地形が現在の境界に影響を与えている可能性を指摘。
32	平泉町教育委員会	内容確認	○	H261109 ～1212	27	・電線共同溝本線から延びる引き込み線部分の内容確認調査。 ・大半が近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていたことが確認された。
33	平泉町教育委員会	内容確認	○	H270611 ～1116	500	・中島の補足調査と東側土塁及びその東部の調査 ・中島の調査では本堂基壇が川原石に被覆されている独特の基壇意匠であることを確認した。 ・東側土塁は、無量光院造営時に盛られていることを確認した。 ・東側土塁の東部では、無量光院跡段階の柱穴と汚物廃棄穴を確認した。また、その下層から無量光院以前の築地塀を検出した。
34	平泉町教育委員会	内容確認	○	H280811 ～1130	200	・無量光院跡北東端の調査 ・北東側を区画する堀跡２条を確認。堀跡は12世紀後半以降に同一箇所で短期間に作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北隣に位置する柳之御所遺跡の堀跡も外側から内側への移行及び複数回の浚渫が認められ、同遺跡堀との関連性が伺える。
35	平泉町教育委員会	住宅新築		H280523 ～0729	147	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の東西軸の大溝跡を検出したが、無量光院跡に伴うものかは不明。
36	平泉町教育委員会	内容確認	○	H290801 ～1117	160	・無量光院跡北東端の調査。 ・北東側を区画する堀跡２条を確認。堀跡は12世紀後半以降に同一箇所で短期間に作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北隣に位置する柳之御所遺跡の堀跡も外側から内側への移行及び複数回の浚渫が認められ、同遺跡堀との関連性が伺える。
37	平泉町教育委員会	住宅新築		H290531 ～0801	110	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、焼土遺構、柱穴を検出。無量光院跡造営時の整地層下から12世紀前半のかわらけとともに擦文土器が出土。
38	平泉町教育委員会	住宅新築		H290802 ～0824	75	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、柱穴を検出。
39	平泉町教育委員会	住宅新築		H300405 ～0507	53	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。木枠を持つ井戸状遺構１基を検出。
40	平泉町教育委員会	内容確認	○	H300709 ～1026	200	・無量光院跡東側の調査。無量光院跡以前の石敷と築地塀を検出。
41	平泉町教育委員会	盛土		H301026 ～1129	58	・無量光院跡南西端の史跡外の調査。溝跡３条を検出。うち２条の帰属時期は12世紀。
42	平泉町教育委員会	電線共同溝	○	H310306 ～0326	20	・無量光院跡を北西－南東方向に縦断する県道脇の調査。溝１条、整地層、柱穴１個を検出。
43	平泉町教育委員会	造成		H310415 ～0423	85	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑１基、柱穴を検出。
44	平泉町教育委員会	住宅新築		H310409 ～ R010523	90	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の整地層とその上面から土坑、柱穴を検出。
45	平泉町教育委員会	住宅新築		R010702 ～0807	150	・無量光院跡南東側の史跡外の調査。掘立柱建物跡、土坑、溝、柱穴を検出。
46	平泉町教育委員会	内容確認	○	R010819 ～1101	120	・無量光院跡東側の調査。40次調査の続きとなる無量光院跡以前の築地塀を検出。
47	平泉町教育委員会	内容確認	○	R021021 ～1119	75	・無量光院跡東側土塁北先端部の災害復旧工事に先立つ内容確認調査。無量光院以前の溝を確認した。この溝は無量光院造営時の整地層によって柱穴を検出。
48	平泉町教育委員会	住宅新築		R020531 ～0717	114	・無量光院跡北東側の調査。溝跡、柱穴、落とし穴を確認。落し穴は12世紀以前。溝跡、柱穴は12世紀と近世のものが混在している。

参考文献

文化財保護委員会1954　無量光院跡　埋蔵文化財発掘調査報告第三

平泉町教育委員会1993　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第34集（３次）

平泉町教育委員会1995　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第47集（４次）

平泉町教育委員会1999　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第73集（５～７次）

平泉町教育委員会2000　平泉遺跡群発掘調査略報　岩手県平泉町文化財調査報告書第73集（８～10次）

平泉町教育委員会2003　特別史跡無量光院跡内容確認調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第83集（12次）

平泉町教育委員会2004　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅰ　岩手県平泉町文化財調査報告書第87集（13次）

平泉町教育委員会2004　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第85集（14次）

平泉町教育委員会2005　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅱ　岩手県平泉町文化財調査報告書第91集（15次）

平泉町教育委員会2005　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第92集（16次）

平泉町教育委員会2006　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅲ　岩手県平泉町文化財調査報告書第99集（17次）

平泉町教育委員会2008　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅳ　岩手県平泉町文化財調査報告書第107集（18次）

平泉町教育委員会2009　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅴ　岩手県平泉町文化財調査報告書第109集（19次）

平泉町教育委員会2010　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅵ　岩手県平泉町文化財調査報告書第113集（20次）

平泉町教育委員会2011　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第116集（21次）

平泉町教育委員会2011　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅶ　岩手県平泉町文化財調査報告書第115集（22次）

平泉町教育委員会2012　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅷ　岩手県平泉町文化財調査報告書第117集（23次）

平泉町教育委員会2013　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅸ　岩手県平泉町文化財調査報告書第119集（24次）

平泉町教育委員会2014　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅹ　岩手県平泉町文化財調査報告書第121集（25次）

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2015　無量光院跡第26次・花立Ⅰ遺跡第30次・花立Ⅱ遺跡第24次発掘調査報告書　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第631集

平泉町教育委員会2015　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第124集（27・29次）

平泉町教育委員会2015　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅠ　岩手県平泉町文化財調査報告書第123集（28次）

平泉町教育委員会2016　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅡ　岩手県平泉町文化財調査報告書第125集（30次）

平泉町教育委員会2017　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅢ　岩手県平泉町文化財調査報告書第127集（33次）

平泉町教育委員会2018　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅣ　岩手県平泉町文化財調査報告書第129集（34次）

平泉町教育委員会2018　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第130集（35次）

平泉町教育委員会2019　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅤ　岩手県平泉町文化財調査報告書第131集（36次）

平泉町教育委員会2019　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第132集（37・38次）

平泉町教育委員会2020　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅥ　岩手県平泉町文化財調査報告書第133集（40次）

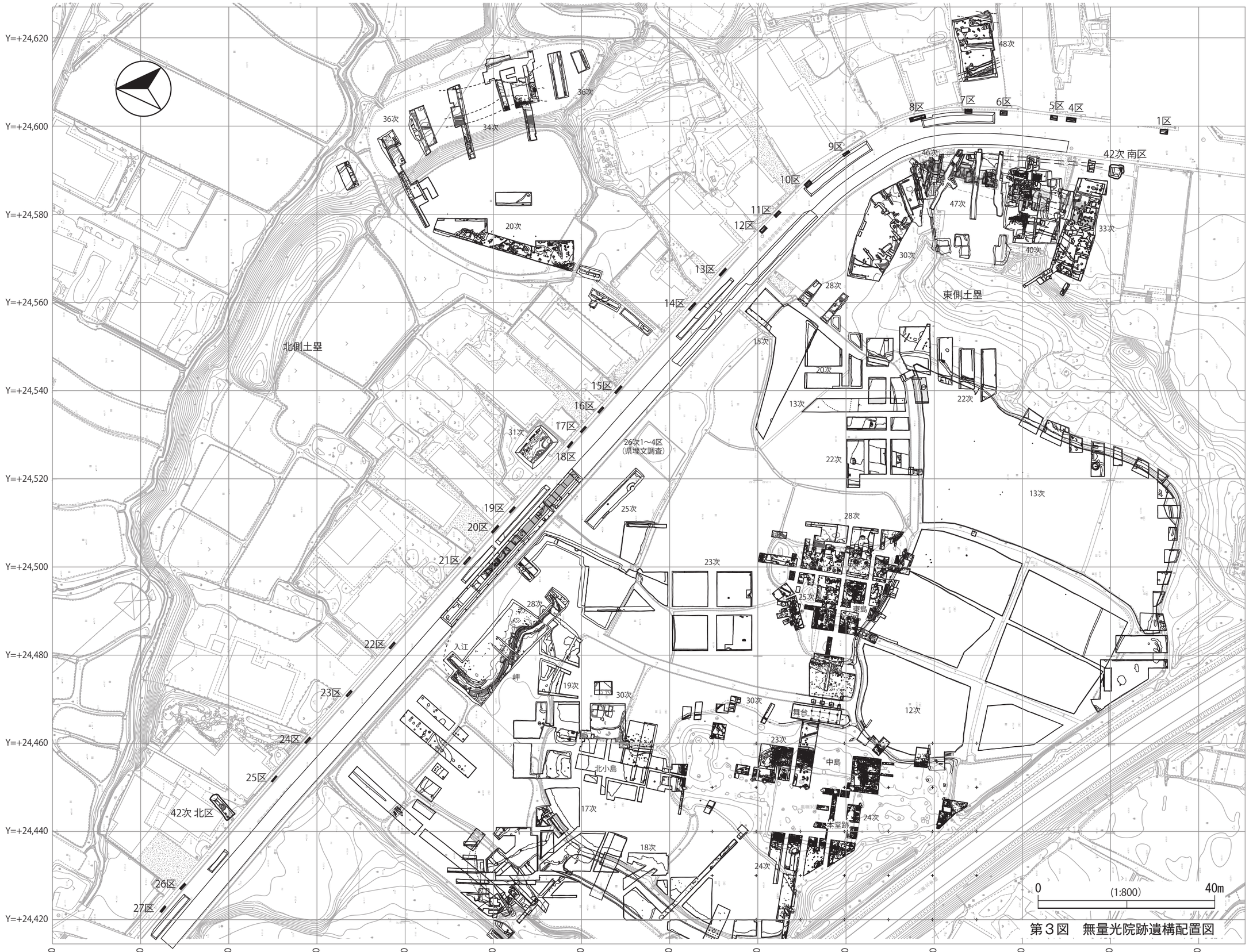
平泉町教育委員会2020　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第134集（39・41次）

平泉町教育委員会2021　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅦ　岩手県平泉町文化財調査報告書第137集（46次）

平泉町教育委員会2021　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第138集（43～45次）

平泉町教育委員会2022　特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅧ　岩手県平泉町文化財調査報告書第140集（47次）

平泉町教育委員会2023　平泉遺跡群発掘調査報告書　岩手県平泉町文化財調査報告書第144集（48次）



第３図　無量光院跡遺構配置図

Ⅲ　無量光院跡第32次調査の概要

1　調査目的

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に伴う内容確認調査である。当該事業は特別史跡無量光院跡において（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成24年度に行った（27次）。共同溝本線分を対象としたこの調査では護岸・池底・排水溝を検出し、共同溝の掘削深度の設定資料となった。今回は本線から各家庭へ延びる引き込み線部分において、遺構を損なわない形での施工とするため遺構検出面の把握を目的としている。対象は35カ所であるが、上下水道の引き込みと重っている10カ所を除く25カ所を調査した。

2　調査方法

調査範囲　今回の調査は電線共同溝支線部分の遺構分布及び検出面標高の確認のため、当該予定地を対象に調査を行った。ただし、民地部分に関しては住宅の軒下や玄関先が調査対象となってしまうため、原因者と県教委との協議の上、民地部分は調査対象外とし、道路敷内の工事予定地のみ調査を行う事となった。そのため、調査区の大きさは幅0.3～0.6m、延長1.5～２mという規模となった。グリッドによる調査区設定は行わず、工事対象予定地を南東側から順番に１区、２区の順に番号をつけ、一日に２～３区をまとめて調査を行った。

粗掘・検出　遺構検出面までは重機でアスファルト及び路盤を剥ぎ、遺構や層位の確認を進め、鋤簾等で遺構検出作業を行った。

精査　基本的には検出に留めた。ただし、遺構の年代・層序等を確認するために、部分的にサブトレンチを入れて調査を行っている。

記録　住宅の玄関先及び道路敷内の調査のため、一日で粗掘り→精査→記録→埋め戻しまでの全ての作業を終わらせなければならない状況であった。そのため、作業時間の短縮のため、遺構の実測は株式会社リッケイの協力を得て写真解析による図化を行った（撮影は調査員が行い、解析・図化を株式会社リッケイが担当）。

測量基準点は無量光院跡内に設置された基準点（平面直角座標Ｘ系（測地2000））を元に行った。なお、平成20年６月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年３月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。よって、同地震以降に新規設置した基準点に関しては、変動前の数値（測地成果2000）に変換した測量成果を使用することで、既存の測量成果との整合性をつけることとした。

遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ（ニコンD90）をメインカメラとして、撮影を行った。

埋め戻し　調査で掘削した土を埋めた。

3　調査概要

調査区の大半が近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていた。これは、現道路側溝脇という調査位置にもよるのかもしれない。同様に池岸及び排水部分に近い調査区（14・19～21区）において無量光院跡の園池に伴う遺構が検出されることが期待されたが、近代以降の道路側溝によって失われている状況を確認した。

ここでは遺構別に記載することとし、各調査区の属性及び出土遺物については第２表を参照願いたい。

（１）道路側溝

今回確認した溝は帰属時期が近代以降の道路側溝と考えられる遺構である。この側溝は31次調査において地表面から1.2～1.5ｍ下（標高27.00～27.34ｍ）の部分で底面近くの面を検出し、無量光院期の遺構及び遺構検出面が失われていることが確認されていること、調査区が狭小であったことから、32次調査においては、基本的に道路側溝を検出した段階で調査を終了した。

〈位置・検出状況〉 ４～11、13～18、20、23～25区

〈堆積状況〉 緑灰～明緑灰砂質土を主体とした自然堆積を呈する。

〈出土遺物〉 １区からかわらけ細片と近代以降の陶磁器（No.２・３）が出土した。

（２）整地層

無量光院跡付近の地形は西から東に向かって緩やかに下がる地形を呈しており、無量光院跡の北・東側では比較的造営時の整地層が確認されていた。今回の調査区では４～25区において整地層の検出が期待されていたが、近代以降の道路側溝によって調査した範囲の大半では失われ、僅かに９～11区で検出した。

〈位置・検出状況〉 ９～11区で検出した。

〈堆積状況〉 にぶい黄褐色粘土を主体としており、周辺の様相に近似している。９区は検出のみ、10区は後世の影響でグライ化している。

〈出土遺物〉 10区において、かわらけ12点が出土した。このうちNo.１の手づくねかわらけを掲載した。

第２表　無量光院跡第32次調査調査区一覧

	調査区（ｍ）		検出面までの深さ（cm）	道路面標高（ｍ）	検出面標高（ｍ）	備　　考
	全長	幅				
１区	1.66	1.0	77～78	26.91～26.94	26.13～26.17	道路側溝を25.90ｍまで調査するも底面未到達。かわらけ１点、磁器３点、陶器１点、ガラス１点出土。
４区	2.07	0.90	93～94	27.10～27.13	26.19～26.20	
５区	1.50	0.95	88	27.13～27.14	26.25～26.26	磁器１点、ガラス２点、石１点出土。
６区	1.52	0.93	106	27.29～27.30	26.23～26.24	推定地山面、磁器１点出土。
７区	1.56	0.87	82～83	27.39～27.41	26.57～26.58	道路側溝を26.46ｍまで調査するも底面未到達。レンガ１点出土。
８区	3.58	0.81	91	27.51～27.61	26.60～26.70	磁器・レンガ各１点出土。
９区	1.52	0.50	58～61	27.80～27.84	27.22～27.23	整地層上面を検出。
10区	1.53	0.88	59～66	27.87～27.95	27.28～27.29	道路側溝を27.03ｍまで調査するも底面未到達。かわらけ12点、釘・ガラス各１点出土。
11区	1.50	0.60	61～62	27.93～28.01	27.31～27.40	
12区	1.53	0.78	34～40	27.94～27.95	－	上水道管のシートが出たため調査中止。
13区	2.02	0.35	66～67	28.04～28.08	27.37～27.42	
14区	2.04	0.33	57～58	28.13～28.15	27.55～27.58	道路側溝を27.40ｍまで調査するも底面未到達。
15区	2.00	0.35	59～62	28.30～28.34	27.71～27.72	道路側溝を27.65ｍまで調査するも底面未到達。磁器1点。
16区	1.52	0.34	59～62	28.35～28.40	27.76～27.78	道路側溝を27.71ｍまで調査するも底面未到達。
17区	1.53	0.32	59～64	28.38～28.44	27.78～27.80	ガラス１点出土。
18区	1.54	0.30	69～70	28.39～28.42	27.70～27.72	釘・ガラス各１点出土。
19区	1.55	0.31	53～56	28.49～28.51	27.93～27.98	
20区	2.02	0.33	68～81	28.55～28.56	27.74～27.88	磁器１点出土。
21区	2.00	0.33	69～75	28.58～28.60	27.83～27.91	
22区	1.61	0.34	62～72	28.75～28.76	28.03～28.14	磁器１点出土。

	調査区（m）		検出面までの深さ（cm）	道路面標高（m）	検出面標高（m）	備　　考
	全長	幅				
23区	1.52	0.35	58～60	28.78～28.82	28.20～28.22	道路側溝を一部調査するが底面未到達。
24区	1.53	0.33	60～61	28.92～28.94	28.32～28.33	かわらけ１点出土。
25区	1.52	0.30	73～74	28.99～29.01	28.25～28.28	陶器（鉢）１点出土、磁器２点出土。
26区	1.54	0.37	69～72	29.17～29.18	28.45～28.49	かわらけ１点出土。
27区	1.53	0.38	65～81	29.21～29.22	28.40～28.57	磁器１点出土。

２・３区は欠番

（３）間知石

無量光院跡北西側では、北に隣接する猫間が淵との間が２m程の高低差があるが、道路拡幅時の盛土造成によって本来の地形が埋められていたことから、12世紀当時の地形把握が課題となっていた。26・27区において道路拡幅前の間地石を検出した。調査区は現在の路側帯にあたっており、現在の道路は北側に向かって何時期か拡幅を行っていた可能性がある。

〈位置・検出状況〉26・27区で検出した。

〈出土遺物〉流れ込みの土器細片と磁器１点が出土した。

４　出土遺物

今回の調査では、かわらけ、近代以降の陶磁器、鉄製品（釘）、ガラス製品、植物遺体等が出土した。

調査区が狭小であること、大半が近代以降の道路側溝もしくは現代の路盤からの出土のため、遺構に伴う遺物の出土量が少ないのが特徴である。

かわらけ　破片主体で13点出土した。大半が10区からの出土で無量光院跡に伴うと考えられる整地層からの出土である。手づくねとロクロかわらけが混在し劣化・剥離が著しい。破片が多く掲載できたものは10区の整地層から出土した手づくねかわらけ１点（No.１）のみであった。他に１・24・26区から各１点出土しているが、近代の道路側溝埋土もしくは検出時の出土である。

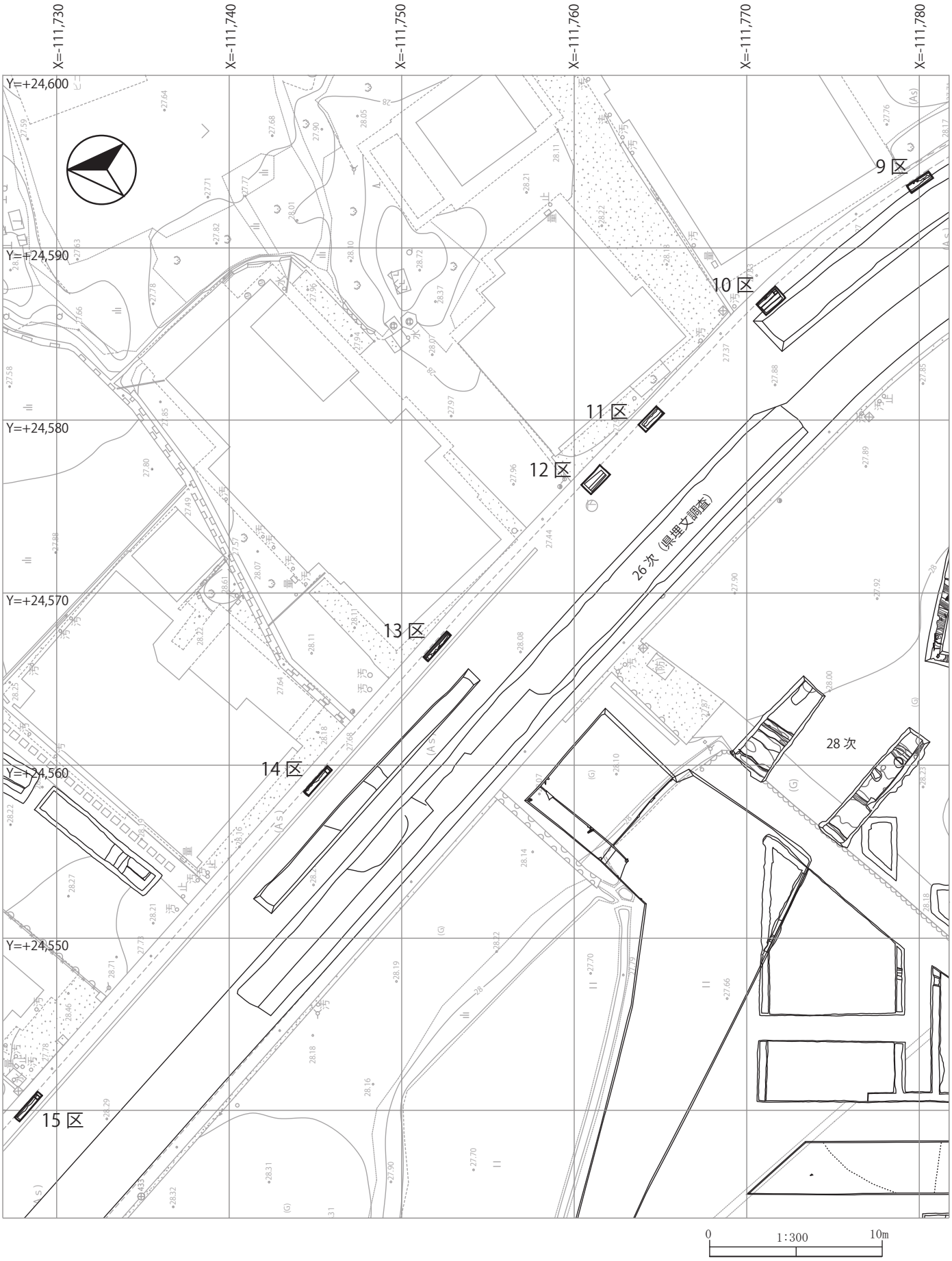
陶器　近代以降の陶器が２点出土した。１・25区から各１点（前者はすり鉢、後者は鉢）出土した。

磁器　近代以降の磁器が12点出土した。細片主体で掲載できたのは、１区から出土した２点（No.２・３）のみであった。

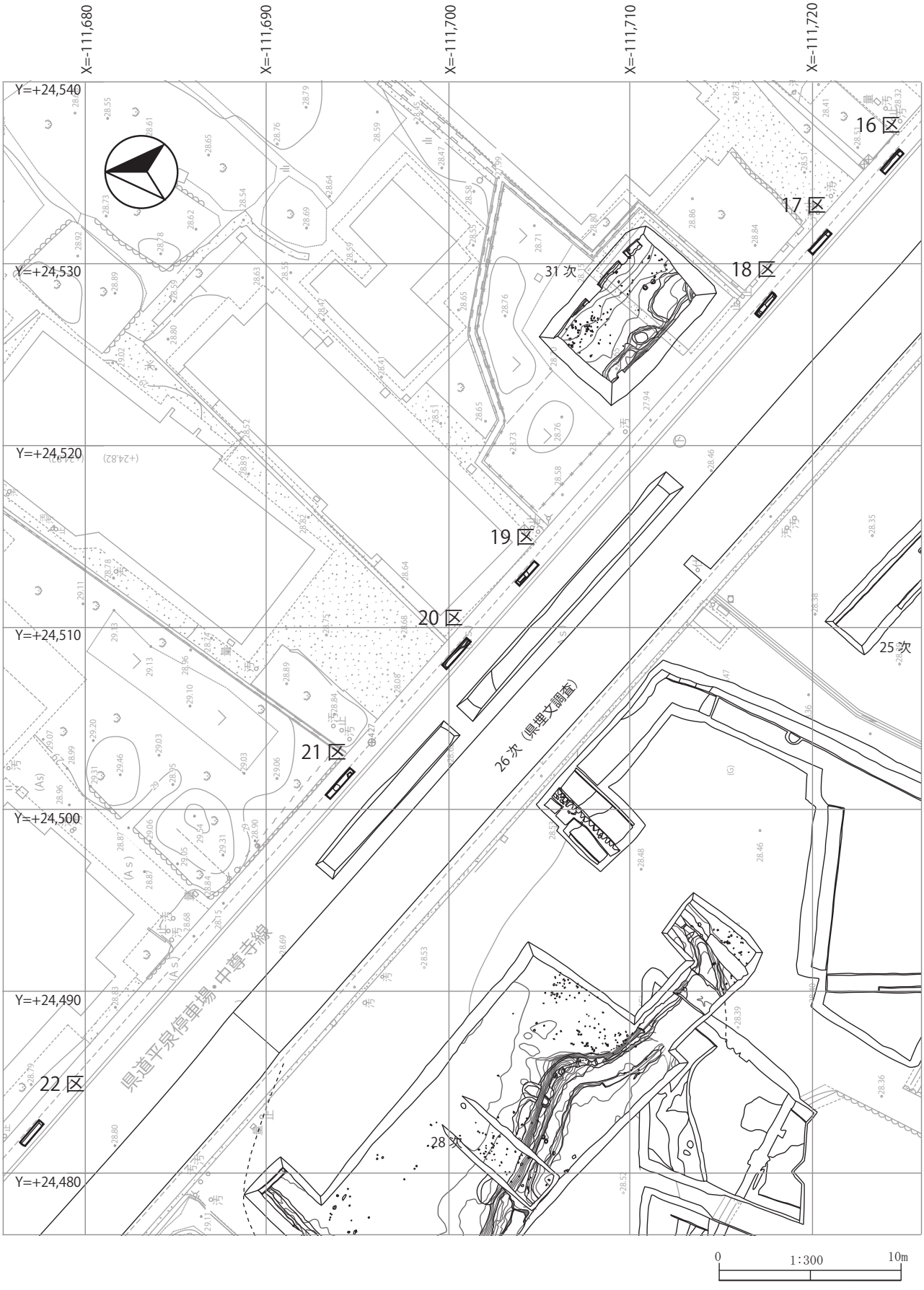
金属製品　10・18区から丸釘が各１点出土した。

ガラス製品　１・５・10・17・18区からはガラス瓶の破片が少量出土した。

第４図　32次調査位置図（１）



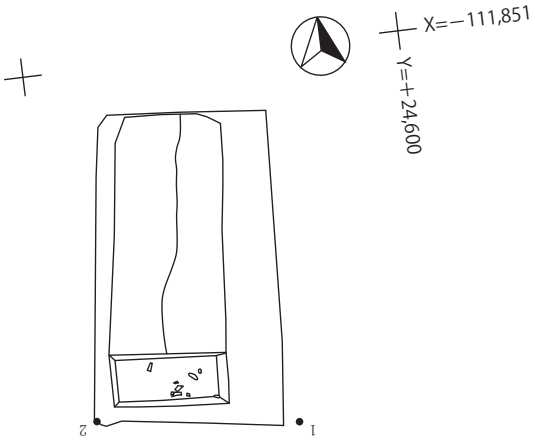
第５図　32次調査位置図（２）

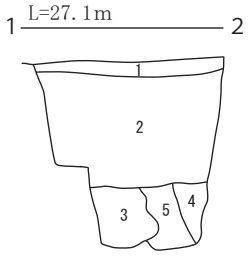


第６図　32次調査位置図（３）

第７図　32次調査位置図（４）

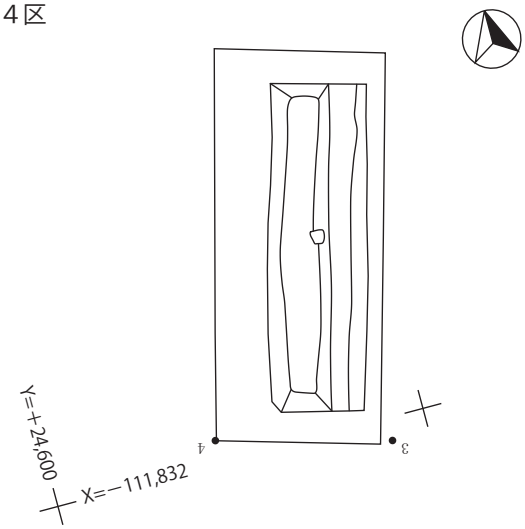
1区

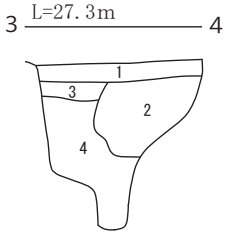




1区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10G6/1緑灰 しまり有 粘性有 2.5Y5/1黄灰を層状に含 鉄分・炭含
4. 7.5GY7/1明緑灰砂質シルト しまり有 粘性やや有 有機質少量
5. 7.5Y5/1灰 しまりなし 粘性有 7.5Y5/1灰砂質土 Φ1〜10cm石を含 炭含 溝の埋土

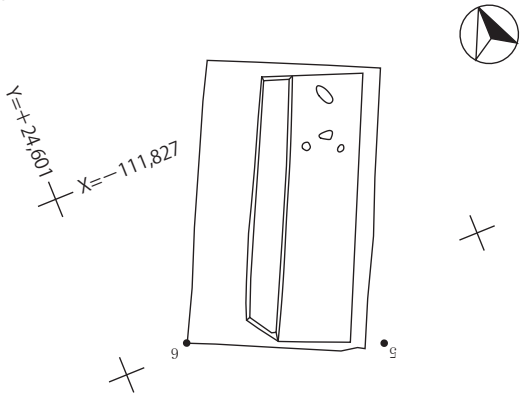
4区

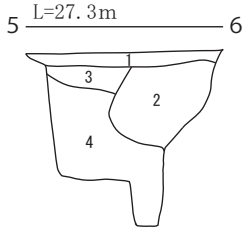




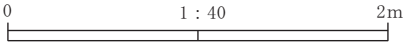
4区
1. アスファルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入
3. 機械ズリ
4. 2.5Y4/1黄灰 しまりやや有 粘性有 10G6/1緑灰と石含 上位を中心に有機質とガラス少量

5区



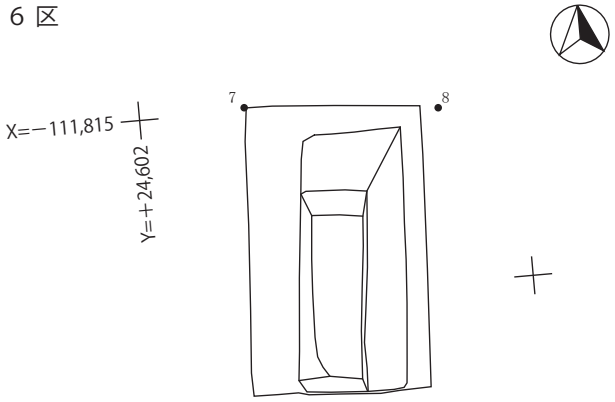


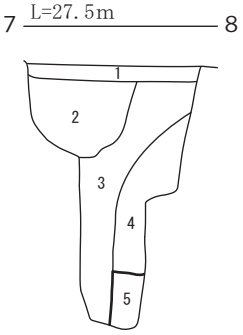
5区
1. アスファルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入
3. 機械ズリ
4. 2.5Y4/1黄灰 しまりやや有 粘性有 10G6/1緑灰と石含 上位を中心に有機質とガラス少量



第8図　1・4・5区

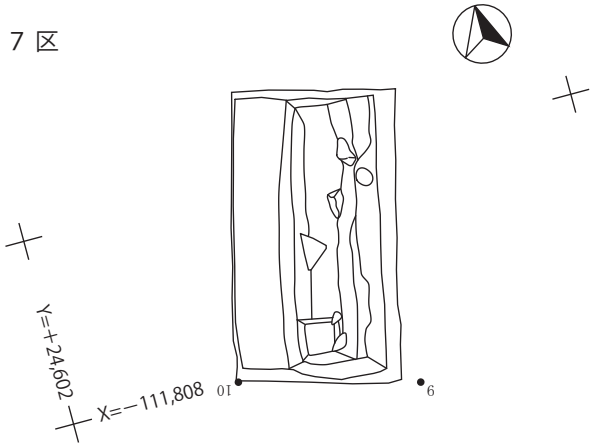
6区

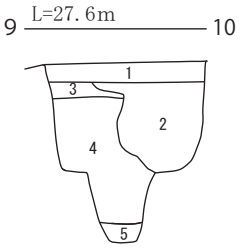




6区
1. アスファルト
2. アスファルト
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
4. 10BG6/1青灰 青灰粘土 しまり有 粘性有 鉄分含
5. 2.5Y8/3淡黄粘土 しまり有 粘性有 地山

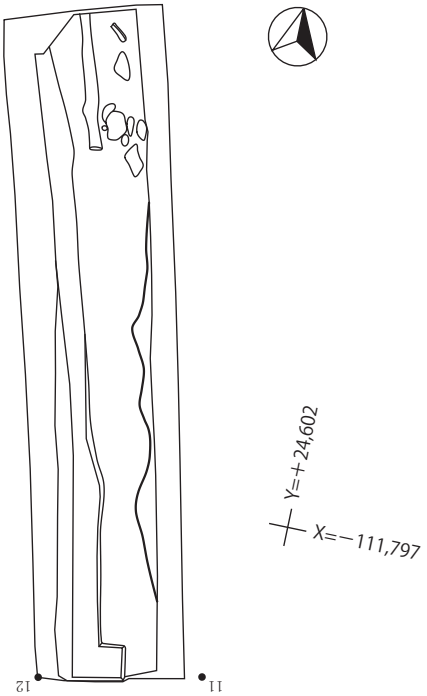
7区

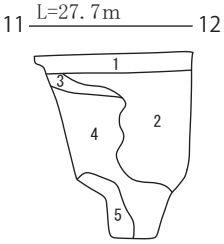




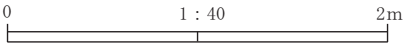
7区
1. アスファルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
3. 機械ズリ
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
5. 7.5Y5/1灰 しまりなし 粘性有 7.5Y5/1灰砂質土 Φ1～10cm石を含 炭含 溝の埋土

8区



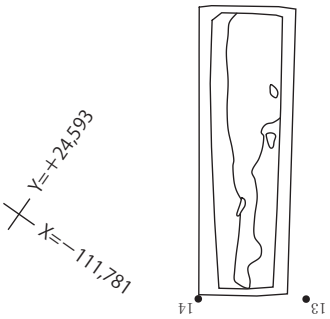


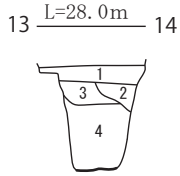
8区
1. アスファルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
3. 機械ズリ
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
5. 7.5Y5/1灰 しまりなし 粘性有 7.5Y5/1灰砂質土 Φ1～10cm石を含 炭含 溝の埋土



第9図　6～8区

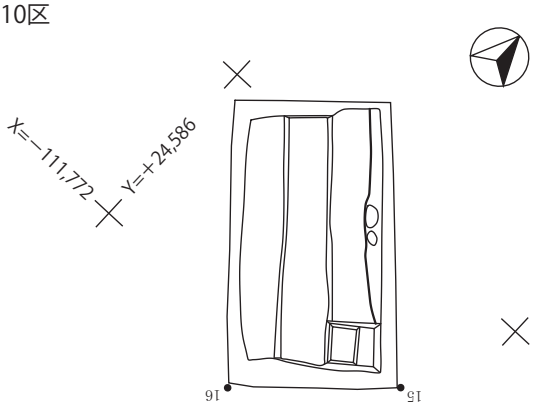
9区

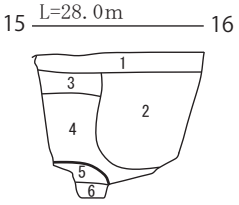




9区
1. アスファルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の
川原石混入
3. 機械ズリ
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の
川原石混入

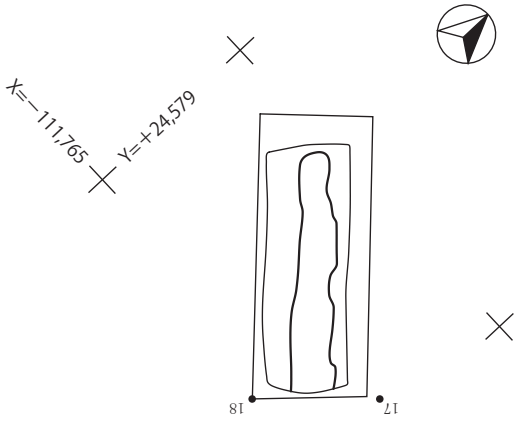
10区

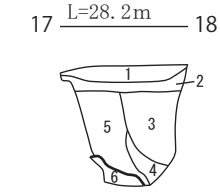




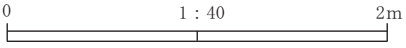
10区
1. アスファルト
2. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の
川原石混入
3. 機械ズリ
4. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の
川原石混入
5. 10G6/1緑灰 しまり有 粘性有 2.5Y5/1黄灰を層状に含 鉄分・炭含(整地層か)
6. 10YR5/3にぶい黄褐 砂質シルト 鉄分・炭・かわらけ含

11区



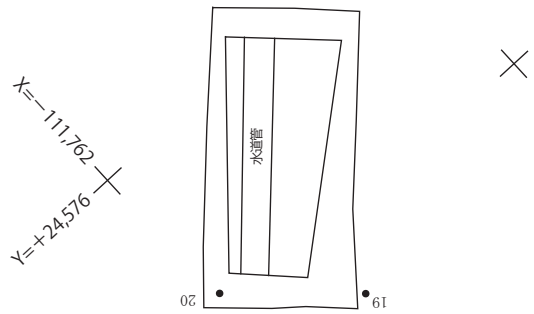


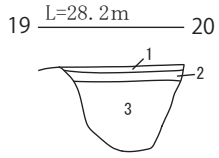
11区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入
4. 2.5Y7/4浅黄粘土 しまりやや有 粘性有 Φ5～10㎝の川原石含
一部グライ化して10G6/1青灰化している
5. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入
6. 2.5Y6/4にぶい黄粘土 しまり有 粘性有 一部2.5Y6/4にぶい黄色土と
10G6/1青灰粘土含 整地層



第10図　9～11区

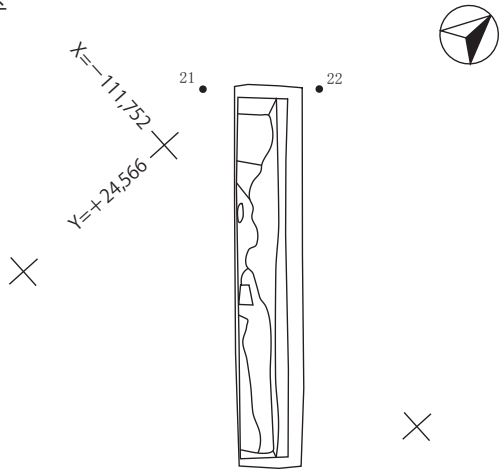
12区

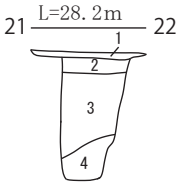




12区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10Y5/1灰色系の機械ズリ 上水道の埋め土

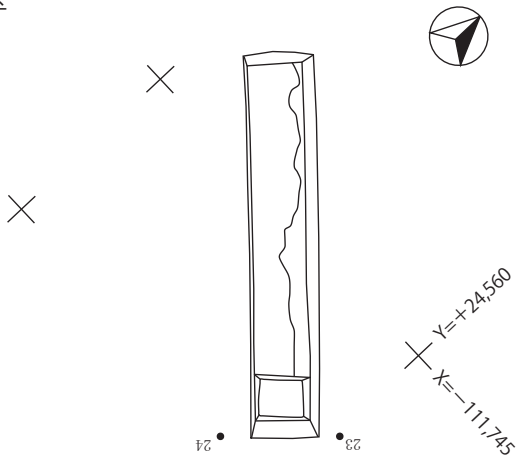
13区

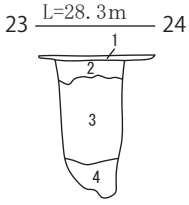




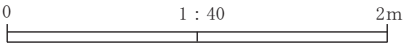
13区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入
4. 7.5GY明緑灰砂質土 しまり有 粘性有 上位を中心に川原石及び10YR6/6明黄褐粘土混入 根含

14区



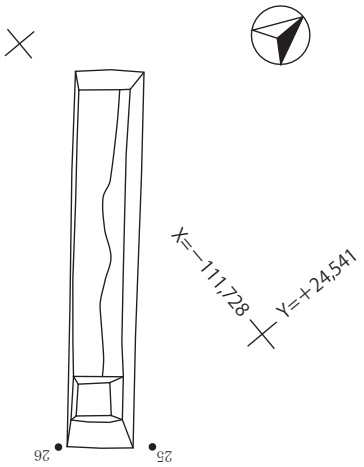


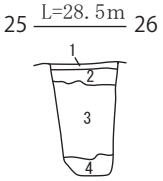
14区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入
4. 7.5GY7/1明緑灰砂質シルト しまり有 粘性やや有 有機質少量



第11図　12〜14区

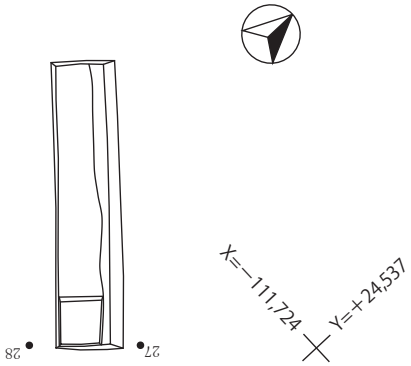
15区

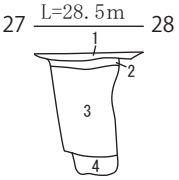




15区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入
4. 7.5GY7/1明緑灰砂質シルト しまり有 粘性やや有 有機質少量

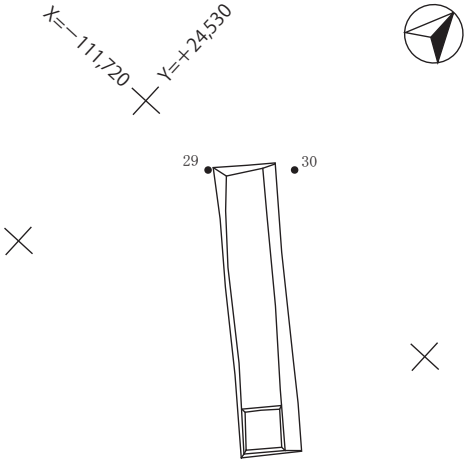
16区

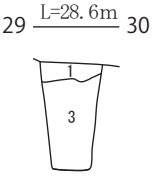




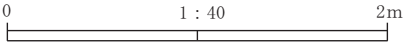
16区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入
4. 7.5GY7/1明緑灰砂質シルト しまり有 粘性やや有 有機質少量

17区



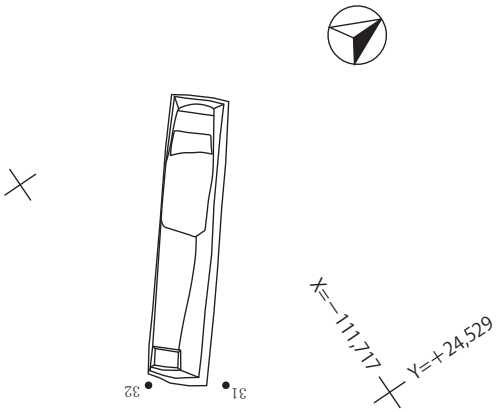


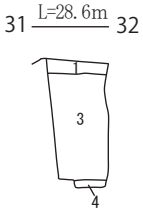
17区
1. アスファルト
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入



第12図　15～17区

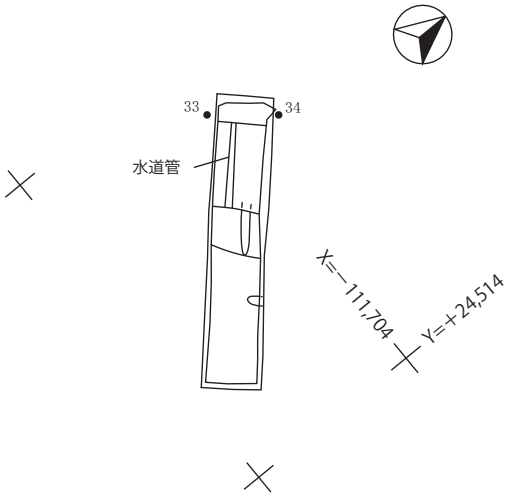
18区

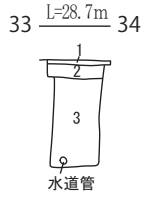




18区
1. アスファルト
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入
4. 7.5GY6/1緑灰 しまり有 粘性有 10G7/1明青灰ブロックと川原石少量

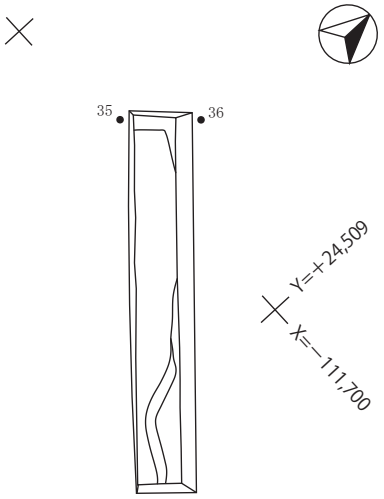
19区

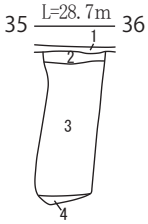




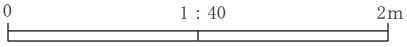
19区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入

20区



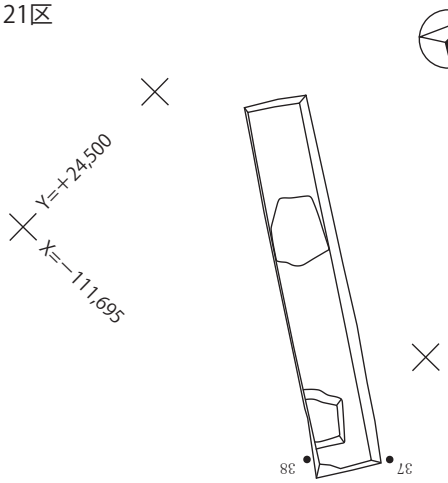


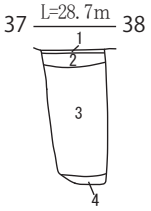
20区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5〜10cmの川原石混入
4. 道路側溝埋土 木の根有



第13図　18〜20区

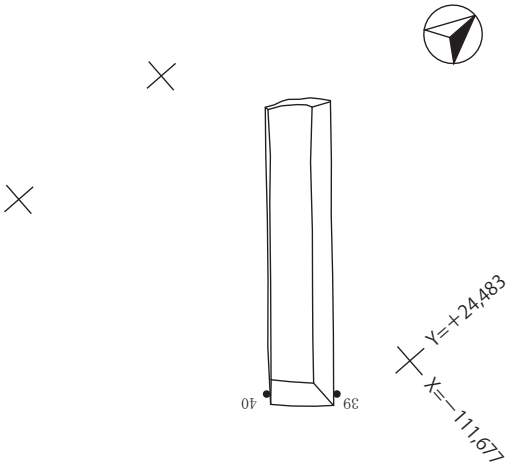
21区

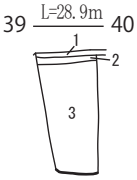




21区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
4. 7.5GY7/1明緑灰砂質シルト しまり有 粘性やや有 有機質少量

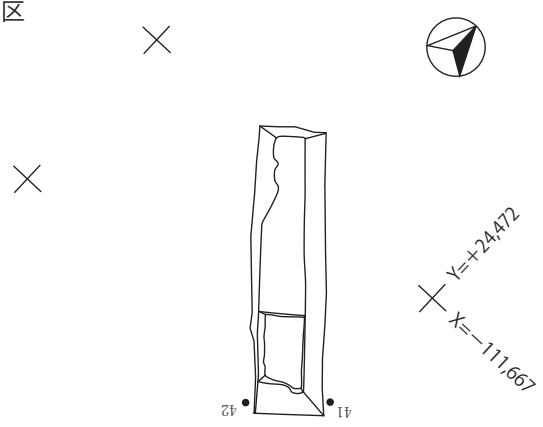
22区

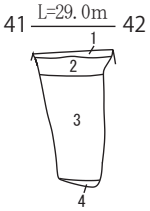




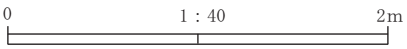
22区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入

23区





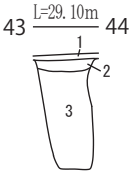
23区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10cmの川原石混入
4. 7.5GY6/1緑灰 しまり有 粘性有 Φ1～5cmの川原石含有機質少量 根少量（道路側溝埋土）



第14図　21～23区

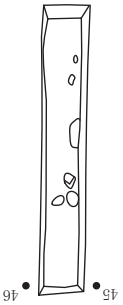
24区

X=-111,657
Y=+24,462

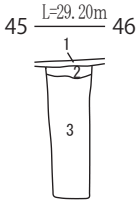


24区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入

25区

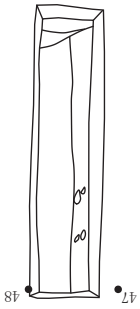


X=-111,650
Y=+24,453

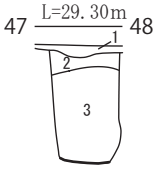


25区
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入

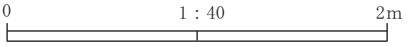
26区



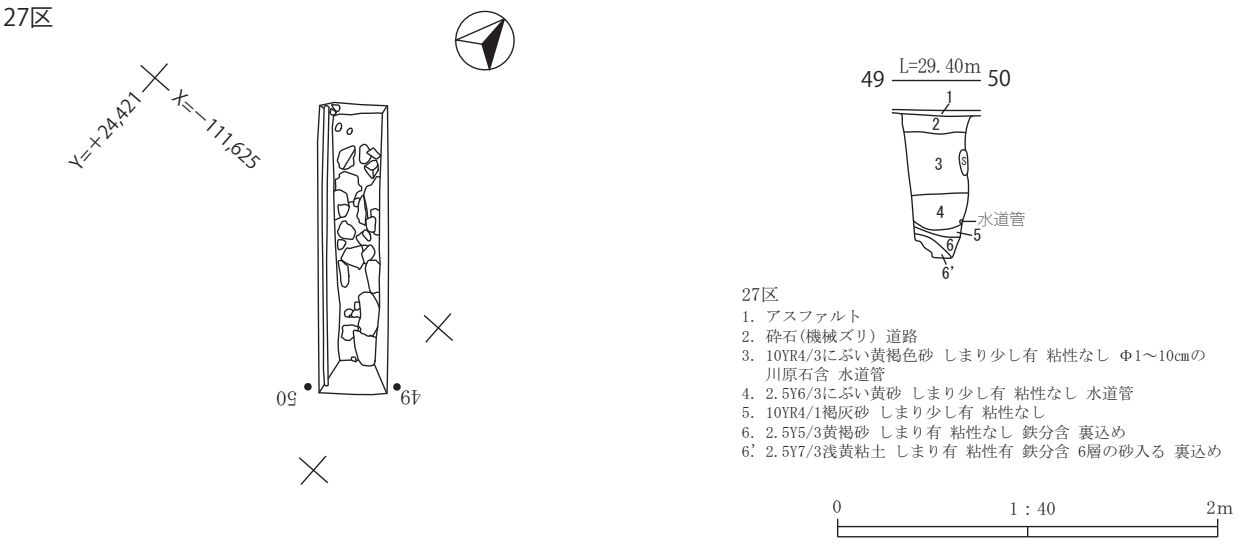
Y=+24,428
X=-111,629



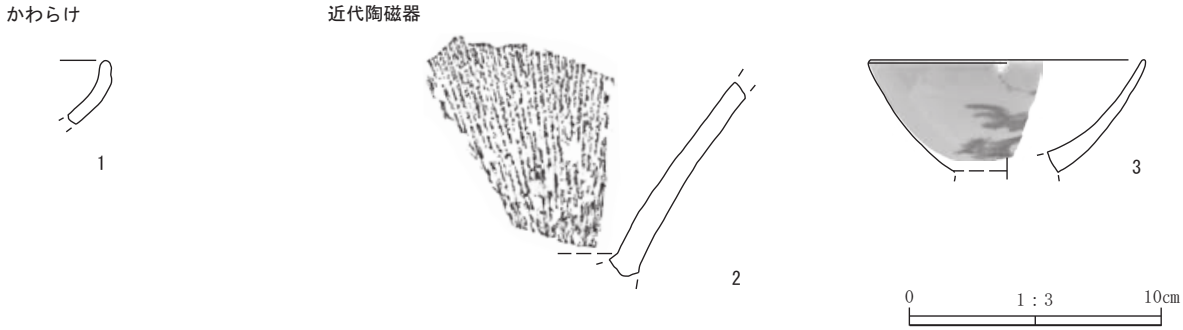
26区
1. アスファルト
2. 機械ズリと黄褐色粘土の混合
3. 10YR4/3にぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし Φ5～10㎝の川原石混入

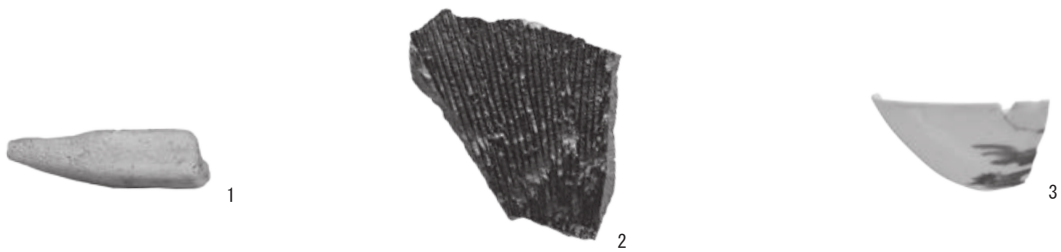


第15図　24～26区



第16図　27区





第17図　32次調査出土遺物

第３表　かわらけ観察表

No.	出土位置・層位	種類	法量（cm）			残存率（%）	年代	備考	登録No.
			口径	底径	器高				
1	10区	手づくね大	−	−	−	小片	12ｃ		15

第４表　陶磁器観察表

No.	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
2	1区　4層		すり鉢	体〜底	19Ｃ以降	内面におろし目有	22
3	1区　5層		碗	口縁〜体	19Ｃ以降	反転実測　内外釉有　外面染付　口径（11.0cm）	23

１区調査前（南西から）

４・５区調査前（北から）

１区平面（東から）

１区断面（北から）

４区平面（東から）

４区断面（北から）

5区平面（東から）

５区断面（北から）

写真図版１　１・４・５区

６区平面（東から）

６区断面（南から）

７区平面（東から）

７区断面（北から）

６・７区調査前（西から）

8区調査前（南から）

９区調査前（南西から）

10区調査前（南西から）

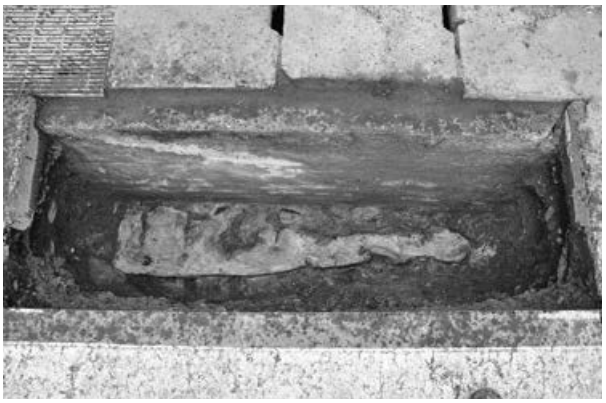
写真図版２　６～10区

８区平面（西から）

８区断面（北から）

８区西側平面（西から）

８区東側平面（西から）



９区平面（南西から）

９区断面（北西から）

10区平面（南西から）

10区断面（北西から）

写真図版３　８～10区

11・12区調査前（南西から）

13区調査前（西から）

11区平面（北東から）

11区断面（北西から）

12区平面（北東から）

12区断面（北西から）

13区平面（北東から）

13区断面（南西から）

写真図版４　11～13区

14区調査前（南西から）

15～17区調査前（南東から）

14区平面（北東から）

14区断面（北西から）

15区平面（北東から）

15区断面（北西から）

16区平面（北東から）

16区断面（北西から）

写真図版５　14～17区

17区平面（北東から）

17区断面（南東から）

18区調査前（北西から）

19・20区調査前（北西から）

18区平面（北東から）

18区平面（北東から）

19区平面（北東から）

19区断面（南東から）

写真図版６　17～20区

20区平面（北東から）

20区断面（南東から）

21区調査前（北西から）

22・23区調査前（北西から）

21区平面（北東から）

23区平面（北東から）

22区平面（北東から）

22区断面（北西から）

写真図版７　20～23区

24区平面（北東から）

24区断面（北西から）

24・25区調査前（南東から）

26・27区調査前（南東から）

25区平面（北東から）

25区断面（北西から）

26区平面（北東から）

27区平面（北東から）

写真図版８　24～27区

Ⅳ　無量光院跡第42次調査の概要

1　調査目的

岩手県が進める防災安全事業に伴い、県道平泉停車場中尊寺線の電線地中化及び道路改良事業を実施することになった。特別史跡無量光院跡内の共同溝の延長は320m、地上機は４箇所の設置が予定されていた。平成24年度に行われた内容確認調査（平成24年５月18日付　24受庁財第４号の76許可）の成果に基づき、設計変更協議を行い、平成29年７月21日付で文化庁の許可を得て事業が進められた（平成29年７月21日付　29受庁財第４号の682で許可）、そのうち二箇所の地上機設置予定箇所について、前述の内容確認調査で未実施であったことから、岩手県教育委員会の指導・調整を経て、平泉町教育委員会が発掘調査を行うことになった。平成31年２月８日付で契約を行い、事前測量を経て３月６日から発掘調査を開始し、同26日に調査を完了した。

2　調査方法

今回の調査は地上機二箇所を対象とした調査である。北側を北区、南側を南区と呼称する。対象地内には既存の工事立会及び試掘調査が行われた箇所が含まれていることから、その部分を除外して調査を進めた。

3　調査概要

検出遺構は溝１条、整地層、柱穴１個である。以下、調査区毎に記載する。

（１）北区

全面で無量光院跡の整地層を検出し、その下層から溝跡（ＳＤ１）を検出した。調査区はかつて住宅があった地点で道路際の南側が低く北側が若干高い地形であった。全面で整地層が1.05～1.8m程厚く堆積しており、その下から地山面を検出した。整地層は地山起源の明黄褐色シルトや黄褐色粘土が85～135cm盛土され、その下層には最大厚10cmの炭やかわらけを含む層（27層）が、その下に腐植土を含む黒褐色粘土（29層）が堆積していた。本来の地形は南西から北東方向に下る緩い傾斜を呈していた。

整地層の下からは、幅1.2m、深さ50cmの溝（ＳＤ１）を延長1.2m程確認し、その下層には灰黄砂を主体とした整地層が堆積していた。堆積の流れは南から北へ土砂が堆積することが看取され、出土遺物の年代から無量光院跡造営期と判断される。ただし、整地層下ＳＤ１及び27・29層は無量光院以前である可能性が高い。

〈出土遺物〉整地層からはかわらけや陶器･漆器などが出土した。ＳＤ１からはかわらけ、中国産磁器、国産陶器や砥石が出土している。なお、整地層下の27・29層からはロクロかわらけの出土が多い傾向があった。

（２）南区

本調査区は、既存の発掘調査成果から地上機の設置位置を重要遺構に抵触しないよう協議を進め設定した調査区である。全体的に撹乱が著しかったものの柱穴を１個検出した。

〈柱穴〉調査区南東隅で検出した。円形状を呈し、径65×［40］cm、深さ88cmを測る。埋土からかわらけ片が出土しているが流れ込みのため、柱穴の帰属時期は不明である。

〈出土遺物〉かわらけ、近世・現代遺物が出土した。

4　出土遺物

今回の調査では、かわらけがコンテナ３箱、中国産白磁３点、中世国産陶器３点、漆器２点、砥石１点等が出土した。かわらけは北区整地層を主体としてＳＤ１や柱穴・表土水田層などから出土している。整地層は破片主体であるが、北区整地層下の27・29層からは状態のよいものが認められる。

かわらけ　コンテナ３箱出土し、残存率の高い27点を掲載した（No.１～27）。手づくね、ロクロ双方出土しているが、実測可能な個体はロクロが多い。北区のＳＤ１と整地層中からの出土が多い。

中国産磁器　中国産白磁壺片が３点出土した。北区整地層とＳＤ１から各１点（No.28・29）、南区の覆土中から１点（No.30）出土し全て掲載した。

国産陶器　渥美甕片が北区ＳＤ１埋土から１点（No.31）、須恵器系甕片が整地層中から１点（No.32）、南区地山直上から常滑片が１点（No.33）出土し、掲載した。

土壁　北区の整地層下やＳＤ１から31点出土した。このうち２点（No.37・39）を掲載した。

羽口　北区の整地層中から破片が１点出土した。

粘土塊　北区27層から１点出土した。1.5×1.5cmの板状三角形で、指で押して反らせた形状をしている。

近世陶磁器　南区からの肥前産磁器碗と大堀相馬産の可能性のある陶器碗が各１点出土した。

金属製品　北区ＳＤ１から角釘２点が出土した。

漆器椀　北区の整地層中から漆器椀の漆被膜が２点（No.56・57）出土し、写真掲載した。

植物遺体　ＳＤ１の下層から桃類の種の破片３点が出土した。

砥石　ＳＤ１の下層からNo.59の砥石１点が出土し、掲載した。

第５表　かわらけ観察表　　（　）推定値　〔　〕残存値

No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	法量（cm）			残存率（%）	年代	備　考	登録No.
					口径	底径	器高				
1	20	12	北区27層	手づくね大	(13.8)	－	〔3.1〕	30	12C	スノコ痕　底部欠損	1-7、2-5、17-5
2	20	12	北区ＳＤ１下層	手づくね大	(15.0)	－	2.4～3.3	50	12C		84、93-4
3	20	12	北区ＳＤ１上層	手づくね小	(9.0)	－	2.1	50	12C	内面口縁に煤付着燈明皿か	46-7
4	20	12	北区ＳＤ１下層	手づくね小	(8.2)	－	〔1.5〕	30	12C	底部欠損	89
5	20	12	北区27層	ロクロ大	(13.8)	(9.0)	3.5～3.8	40	12C	穿孔　スノコ痕	3
6	20	12	北区27層	ロクロ大	－	(9.6)	〔1.9〕	底部のみ	12C	スノコ痕　円柱造り技法　内外底に回転糸切り痕　円盤2枚内面合せで重ねた形状　上に体部が乗る	30
7	20	12	北区27層	ロクロ大	(14.8)	(7.0)	3.5	30	12C		14-4、24-2、32
8	20	12	北区ＳＤ１中位層	ロクロ大	14.9	8.8	2.8～3.5	70	12C		42-1、44
9	20	12	北区ＳＤ１上層	ロクロ大	(13.4)	(7.1)	3.2	30	12C	内外面被熱煤付着	47-5
10	20	12	北区ＳＤ１上層	ロクロ大	－	(8.8)	〔1.6〕	30	12C	スノコ痕　内面に指痕　高台貼り付けか	47-6
11	20	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ大	－	(8.0)	〔1.8〕	30	12C	スノコ痕　内面煤付着	91、92、93-5、46-6
12	20	12	北区27層	ロクロ大	(13.3)	7.5～8.0	2.4～3.5	70	12C	スノコ痕　亀裂入ったまま焼成か	100
13	20	12	北区27層	ロクロ大	13.4	7.5	2.8～3.5	70	12C	摩滅	108、114-3・4
14	20	12	北区ＳＤ１底	ロクロ大	－	6.6	〔1.2〕	40		円盤状に加工か	50
15	20	12	北区整地層	ロクロ小	8.8	6.2	1.3～1.8	完形	12C	スノコ痕	2-2
16	21	12	北区27層	ロクロ小	8.5	6.1	1.2～1.6	70	12C	摩滅	6
17	21	12	北区27層	ロクロ小	(8.6)	6.0	1.5～1.8	70	12C	摩滅	28
18	21	12	北区ＳＤ１上層	ロクロ小	－	6.1～6.5	〔1.7〕	80	12C	スノコ痕　口縁部欠損	38
19	21	12	北区ＳＤ１上層	ロクロ小	(8.8)	6.8	〔1.9〕	80	12C	スノコ痕　口縁部ほぼ欠損	46-8
20	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	9.9	6.7～6.9	2.2	80	12C	スノコ痕　内外面煤付着	79
21	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	(9.2)	5.9	1.8～2.0	50	12C	内外面煤付着	80
22	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	(8.8)	6.0～6.3	1.7	70	12C	スノコ痕	81
23	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	(9.2)	5.8	1.6～1.9	60	12C		82
24	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	8.7	5.7	1.5～1.7	完形	12C	スノコ痕　内外面に煤	85
25	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	8.8～9.1	6.2	1.5～1.9	完形	12C	歪みあり	88
26	21	12	北区ＳＤ１下層	ロクロ小	－	5.6	〔1.1〕	50	12C	スノコ痕　外面に煤	129
27	21	12	南区断面３-４　３層	ロクロ小	－	6.6	〔1.5〕	40	12C	摩滅　口縁部欠損	26

第６表　中国産磁器観察表

No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　　考	登録No.
28	21	12	北区整地下層	白磁	壷	胴部	12C	Ⅲ系	1-2
29	21	12	北区ＳＤ１下層	白磁	壷	肩部	12C	Ⅲ系　28と同一個体か	86
30	21	12	南区柱穴上面	白磁	壷	胴部	12C	Ⅱ系	11-2

第７表　国産陶器観察表

No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　　考	登録No.
31	21	12	北区ＳＤ１上層	渥美	甕	胴部	12C	押印	34
32	21	12	北区27～28層	須恵器系	甕	胴部	12C	タタキ	113-2
33	21	12	南区北側地山直上層	常滑	甕	胴部	12C	中型甕か	10-3

第８表　土壁観察表

〔　〕残存値

No.	図版	写真	出土位置・層位	法量（cm）	重量（g）	スサの有無	備　　考	登録No.
34	－	－	北区整地下層	〔1.2〕～〔2.5〕	12.8	有	３点	1-3
35	－	－	北区整地下層	〔1.0〕～〔2.7〕	11.8	有	３点	14-2
36	－	－	北区27層	〔1.0〕～〔3.3〕	23.4	有	３点	17-2
37	21	12	北区27層	〔3.4〕×〔7.5〕	86.0	有	一部炭化	18-2
38	－	－	北区ＳＤ１上層	〔1.2〕～〔2.4〕	5.4	有	２点	46-2
39	21	12	北区ＳＤ１上層	〔2.8〕×〔5.0〕	38.7	有	一部炭化	47-2
40	－	－	北区ＳＤ１上層	〔0.9〕～〔2.6〕	10.2	有	３点	48-2
41	－	－	北区27層	〔0.9〕×〔2.8〕	3.2	有		49-2
42	－	－	北区ＳＤ１上層	〔1.1〕×〔2.5〕	2.6	有		62-2
43	－	－	北区ＳＤ１上層	〔1.6〕～〔2.9〕	13.3	有	２点	66-2
44	－	－	北区整地層	〔0.9〕×〔1.3〕	1.0	無		69-2
45	－	－	北区ＳＤ１上層	〔2.1〕×〔3.7〕	14.3	有		75-2
46	－	－	北区ＳＤ１上層	〔1.8〕×〔2.5〕	9.8	有		98-2
47	－	－	北区27層対応	〔1.3〕～〔3.4〕	27.0	有	５点	115-2
48	－	－	北区27層	〔1.4〕×〔2.4〕	4.2	有		123-2
49	－	－	北区ＳＤ１下層	〔0.6〕～〔3.6〕	9.1	有	２点	148-2

第９表　羽口観察表

〔　〕残存値

No.	図版	写真	出土位置・層位	法量（cm）			重量（g）	備　　考	登録No.
				長さ	幅	厚さ			
50	－	－	北区27層	〔2.7〕	〔2.0〕	〔1.1〕	5.7		49-6

第10表　近世陶磁器観察表

No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備　　考	登録No.
51	－	－	南区埋土上層	大堀相馬か	陶器碗	体部	近世か	中国産青磁に似るが釉が厚い	2-4
52	－	－	南区清掃と撹乱	肥前	磁器碗	体部	近世		3-2

第11表　金属製品観察表

No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	法量（cm）			重量（g）	備　　考	登録No.
					長さ	幅	厚さ			
53	－	－	北区ＳＤ１下層	角釘か	5.3	0.7	0.5	6.1		16-3
54	－	－	北区ＳＤ１上層	角釘か	4.8	0.5	0.4	1.7		48-4

第12表　鉄滓観察表

No.	図版	写真	出土位置・層位	大きさ（cm）	重量（g）	磁着	備　　考	登録No.
55	－	－	北区整地上層	3.8×2.8	32.0	有		51-3

第13表　漆器観察表

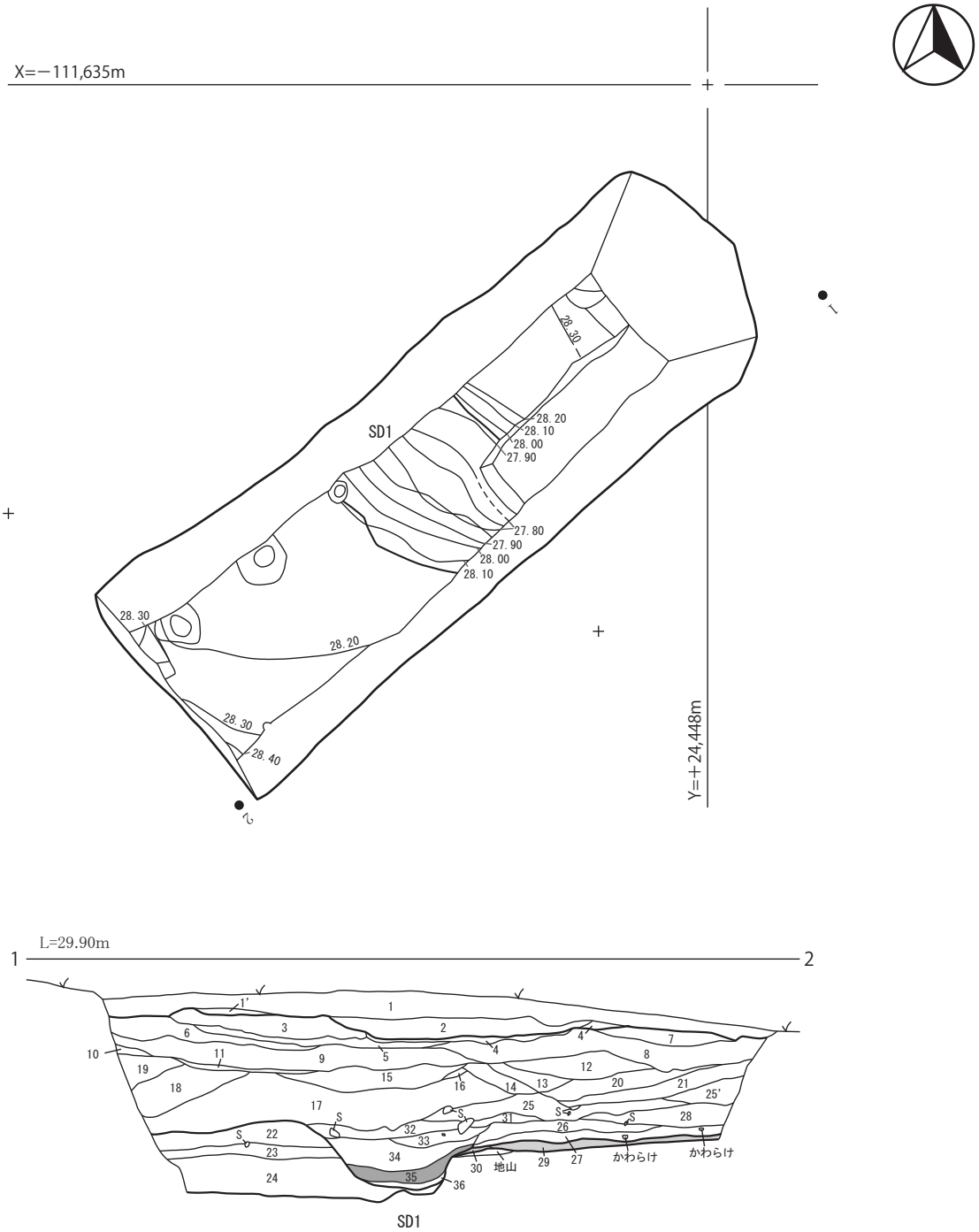
No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	器種	大きさ（cm）		備　　考	登録No.
						径	高さ		
56	－	12	北区整地層	漆器	椀	12.5～13.8	5.0	被膜のみ　底径８cm程度	12
57	－	12	北区整地層	漆器	椀	8.8～11.0	－	被膜のみ３片	11

第14表　種子観察表

No.	図版	写真	出土位置・層位	種　　類	大きさ（cm）	備　　考	登録No.
58	－	－	北区ＳＤ１下層	桃類	－	細片３点	148-3

第15表　石製品観察表

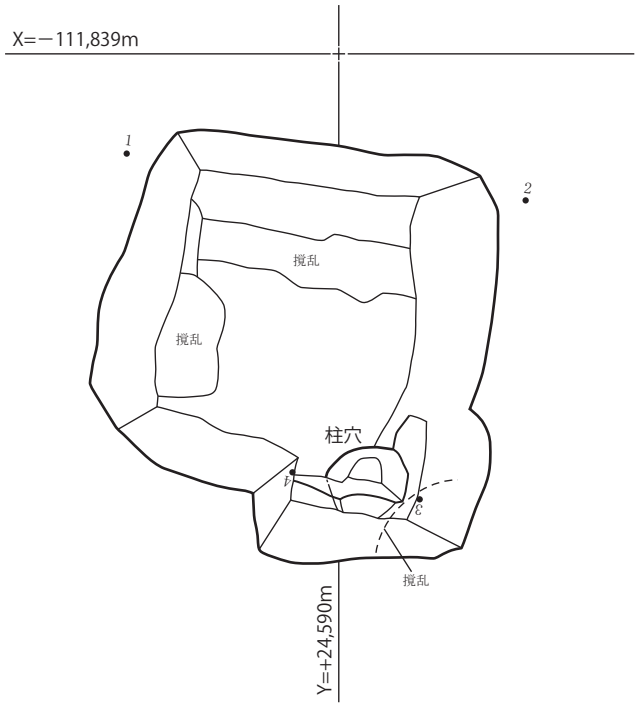
No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	法量（cm）			重量（g）	色調	備　　考	登録No.
					長さ	幅	厚さ				
59	21	12	北区ＳＤ１下層	砥石	6.6	4.6	2.0	78.9	灰白	５面に擦痕	110

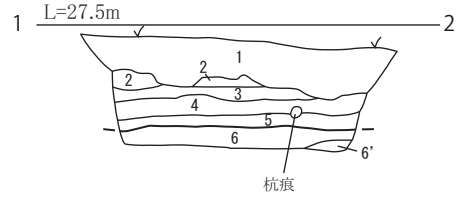


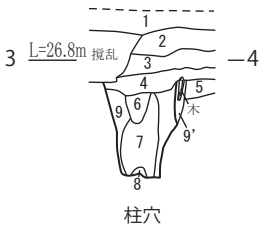
1-2
1. 表土
1'. 表土盛土
2. 2.5Y5/2暗灰黄粘土と砂 2.5Y6/2灰黄粘土 鉄分含 下位はシルト～砂と層位状堆積
3. 10YR6/8明黄褐粘土と砂ブロック 2.5Y5/2暗灰黄粘土ブロック混入
4. 10YR3/2黒褐シルト 2.5Y5/2暗灰黄粘土ブロック 2.5Y7/2灰黄砂ブロック
5. 10YR6/8明黄褐粘土と2.5Y7/2灰黄粘土ブロック混合
6. 5Y7/3浅黄砂
7. 2.5Y6/3にぶい黄砂 固くしまり有 2.5Y6/2灰黄粘土ブロック混入
8. 2.5Y6/2灰黄シルト同色粘土と10YR6/3にぶい黄橙粘土ブロック混入 炭含
9. 10YR6/8明黄褐砂～シルト 10YR5/2灰黄褐シルト少し混入
10. 2.5Y7/2灰黄シルト～砂
11. 2.5Y4/2暗灰黄砂同色粘土混じる 2.5Y7/4浅黄と10YR5/6黄褐の粘土ブロック混入
12. 2.5Y5/2暗灰黄砂 10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入 炭含 締まり有
13. 2.5Y5/2暗灰黄砂 10YR5/6黄褐粘土ブロックと5Y7/2灰白シルトブロック混入
14. 10YR5/6黄褐粘土と10YR3/1黒褐粘土ブロック構成 鉄分・炭多く含 上の方は15層様
15. 10YR4/1褐灰砂 2.5Y7/4浅黄と10YR5/6黄褐粘土ブロック混入
16. 10YR5/6黄褐粘土と10YR3/1黒褐粘土ブロック構成 鉄分・炭含
17. 10YR5/6黄褐粘土と10YR3/1黒褐粘土ブロック構成で、西上方から東下方に傾斜した堆積状況を示す 鉄分・炭含
18. 10YR5/8黄褐同色粘土ブロック 10YR4/1褐灰粘土混じる 炭
19. 10YR5/2灰黄褐シルト 2.5Y7/3浅黄シルト混じる
20. 10YR5/3にぶい黄褐砂 7.5YR5/8明褐と2.5Y6/3にぶい黄の粘土ブロック混入
21. 2.5Y5/2暗灰黄砂 7.5YR5/8明褐粘土ブロック少し混じる 炭含
22. 2.5Y6/2灰黄砂 2.5Y7/4黄色粘土ブロック混入 10YR4/2灰黄褐粘土混 鉄分含
23. 5Y7/2灰白砂同色粘土ブロック 2.5Y4/2黄灰粘土混入 1cm大の小石まじり
24. 2.5Y6/2灰黄砂 同色粘土ブロック混入
25. 7.5YR5/8明褐粘土ブロック 2.5Y4/1黄灰と2.5Y7/1灰白粘土混じる
25'. 10YR5/6黄褐粘土 2.5Y7/2灰黄粘土 2.5Y5/2暗灰黄混入
26. 2.5Y4/1黄灰粘土 2.5Y7/3浅黄シルトブロック混入 炭含
27. 2.5Y4/2暗灰黄粘土 2.5Y6/3にぶい黄の粘土ブロック混入 炭多く含 炭層
28. 5Y6/1灰シルトと10YR6/6明黄褐粘土ブロック混入 炭含
29. 5Y3/2オリーブ黒粘土 同砂混入 炭含
30. 2.5Y3/2黒褐粘土 砂混じる 炭含
31. 10YR5/2灰黄褐 2.5Y5/4黄褐粘土ブロック少し混入
32. 2.5Y7/2灰黄粘土ブロック 2.5Y5/2暗灰黄粘土ブロック少し混入 10YR5/2灰黄褐 2.5Y8/4淡黄粘土ブロック 鉄分含
33. 10YR4/2灰黄褐 2.5Y6/2灰黄砂と2.5Y7/6明黄褐粘土ブロック混入
34. 2.5Y5/2暗灰黄粘土 10Y7/2灰白粘土ブロック 砂・炭混入
35. 10YR4/2灰黄褐粘土 5Y4/2灰オリーブ砂と炭混じる
36. 10YR1.7/1黒粘土 水分含む 炭層
地山 10YR6/2オリーブ灰砂 下が7.5YR4/6褐色砂

0　1：60　2m

第18図　42次調査北区







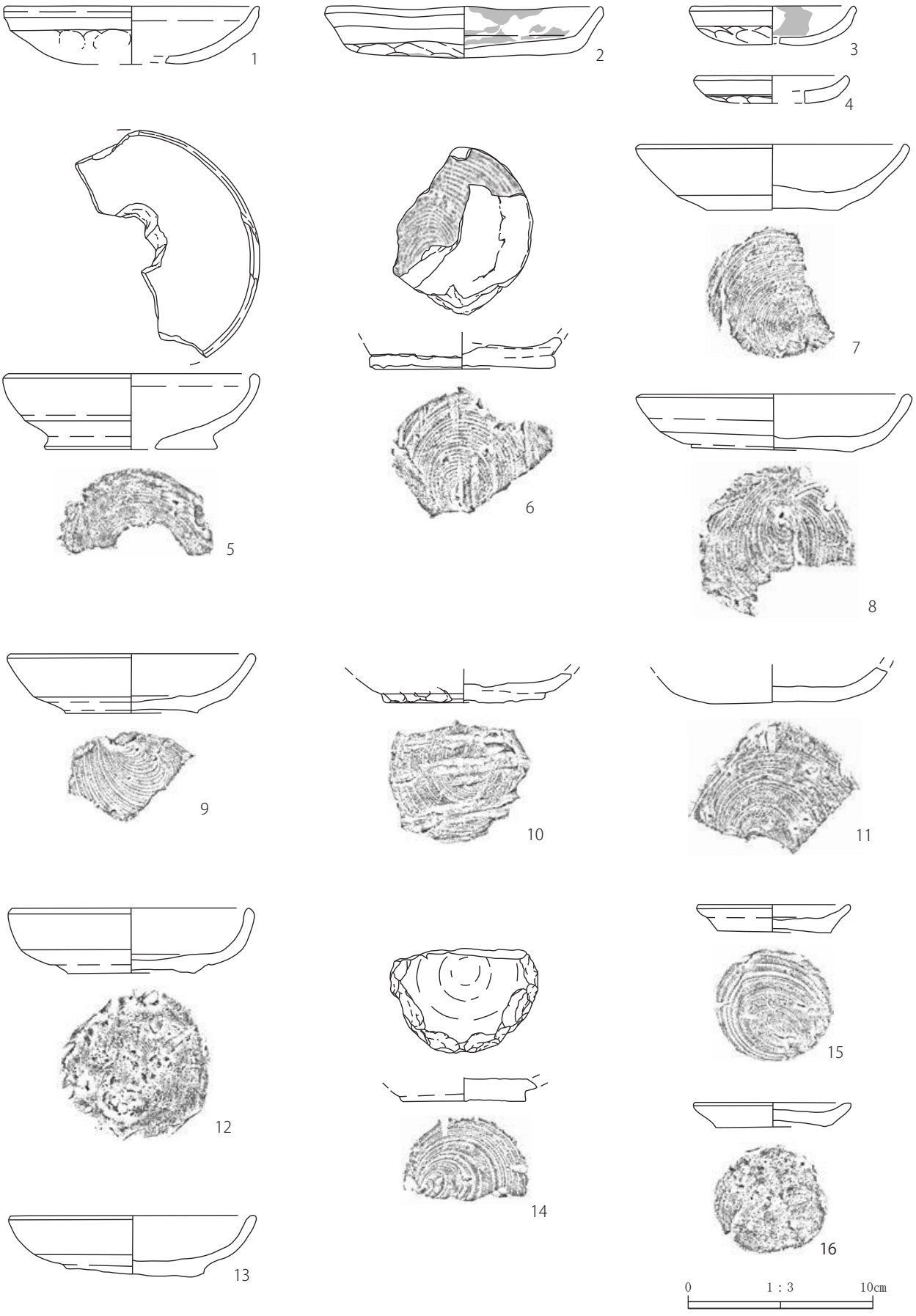
1-2
1. 表土
2. 2.5Y3/2黒褐粘土
3. 2.5Y3/2黒褐粘土
4. 10YR3/2黒褐粘土 中央は5Y4/1灰の色調 鉄分
5. 10YR4/2灰黄褐粘土
6. 2.5Y8/3淡黄粘土
6'. 10YR6/2灰黄褐砂

3-4
1. 砕石
2. 10YR4/3にぶい黄褐シルト 炭と2.5Y8/4淡黄粘土ブロック混入
3. 5Y3/1オリーブ黒粘土 炭と砂含
4. 2.5GY4/1暗オリーブ灰粘土 砂含
5. 地山か 10Y6/2オリーブ灰粘土 5Y5/1灰砂混入
6. 5G6/1緑灰粘土ブロック 10Y6/2オリーブ灰のしまりあるブロックと10Y4/1灰の砂混じる
7. 10Y6/1灰粘土ブロック 5Y4/1灰粘土と砂混入 下方は5Y5/1灰粘土 砂含
8. 5Y4/2灰オリーブ砂 木質残る 粘性あり
9. 10G6/1緑灰粘土 10Y5/2オリーブ灰の砂と粘土網目状に入る
9'. 杭は現代と思われる その影響層

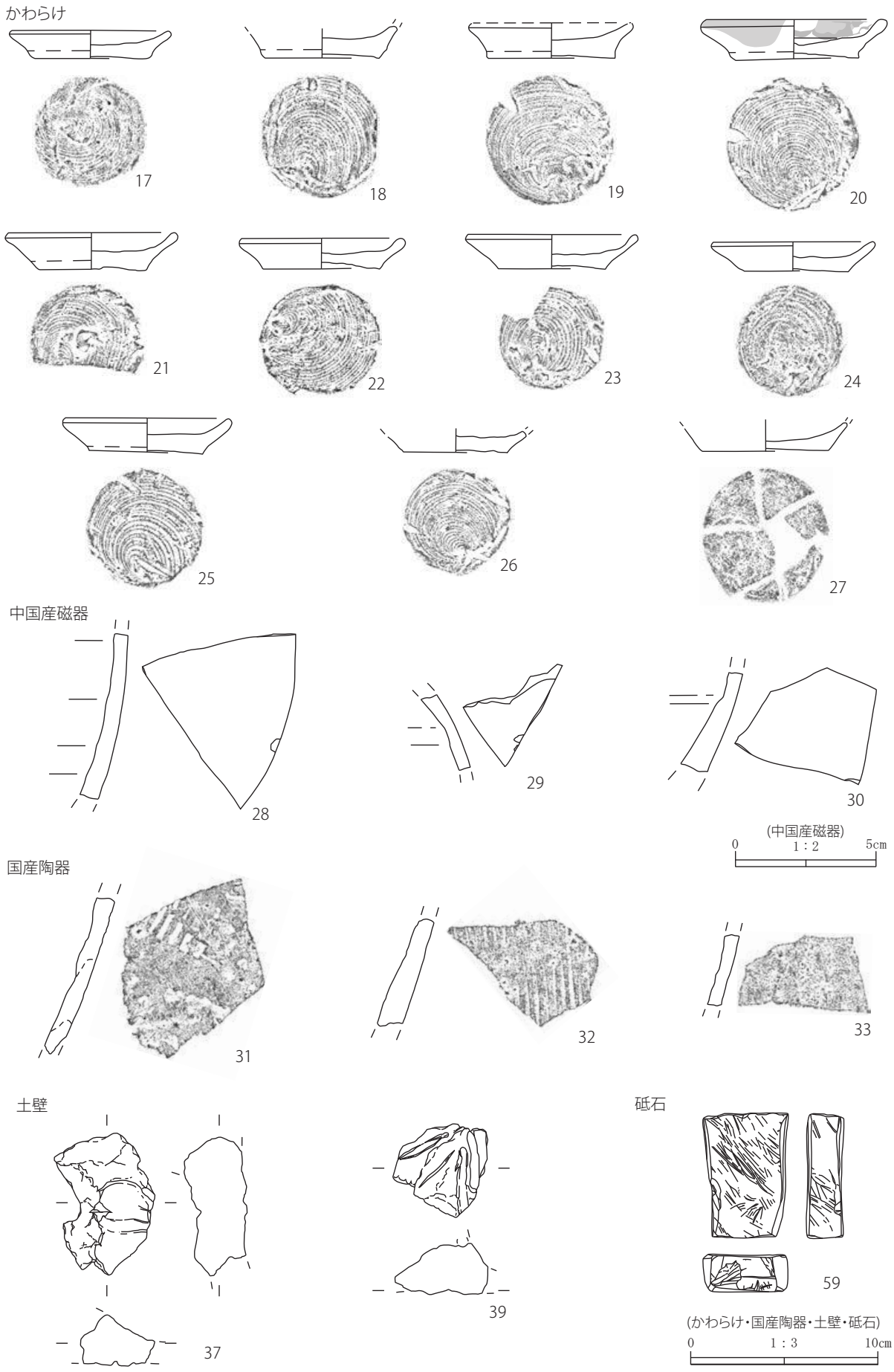
0　1：60　2m

第19図　42次調査南区

かわらけ



第20図　42次調査出土遺物（1）



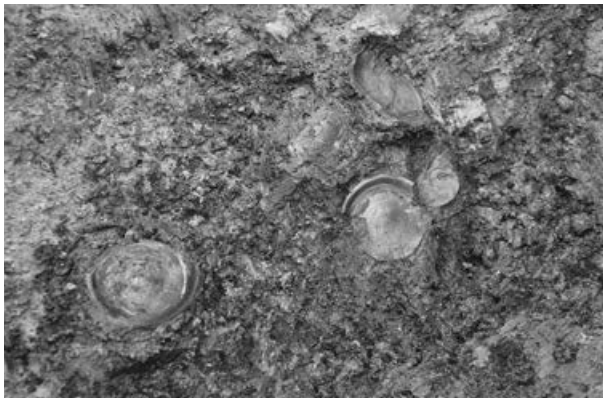
第21図　42次調査出土遺物（2）

北区（北東から）

調査前風景（南西から）

表土除去後（西から）

遺物出土状況１（北西から）



遺物出土状況２（北西から）

写真図版９　42次調査北区（１）

北区断面１－２（北西から）

断面１－２拡大１（北西から）

断面１－２拡大２（北西から）

断面１－２拡大３（北西から）

溝断面（南東から）

写真図版10　42次調査北区（２）

南区（北から）

調査前風景（東から）

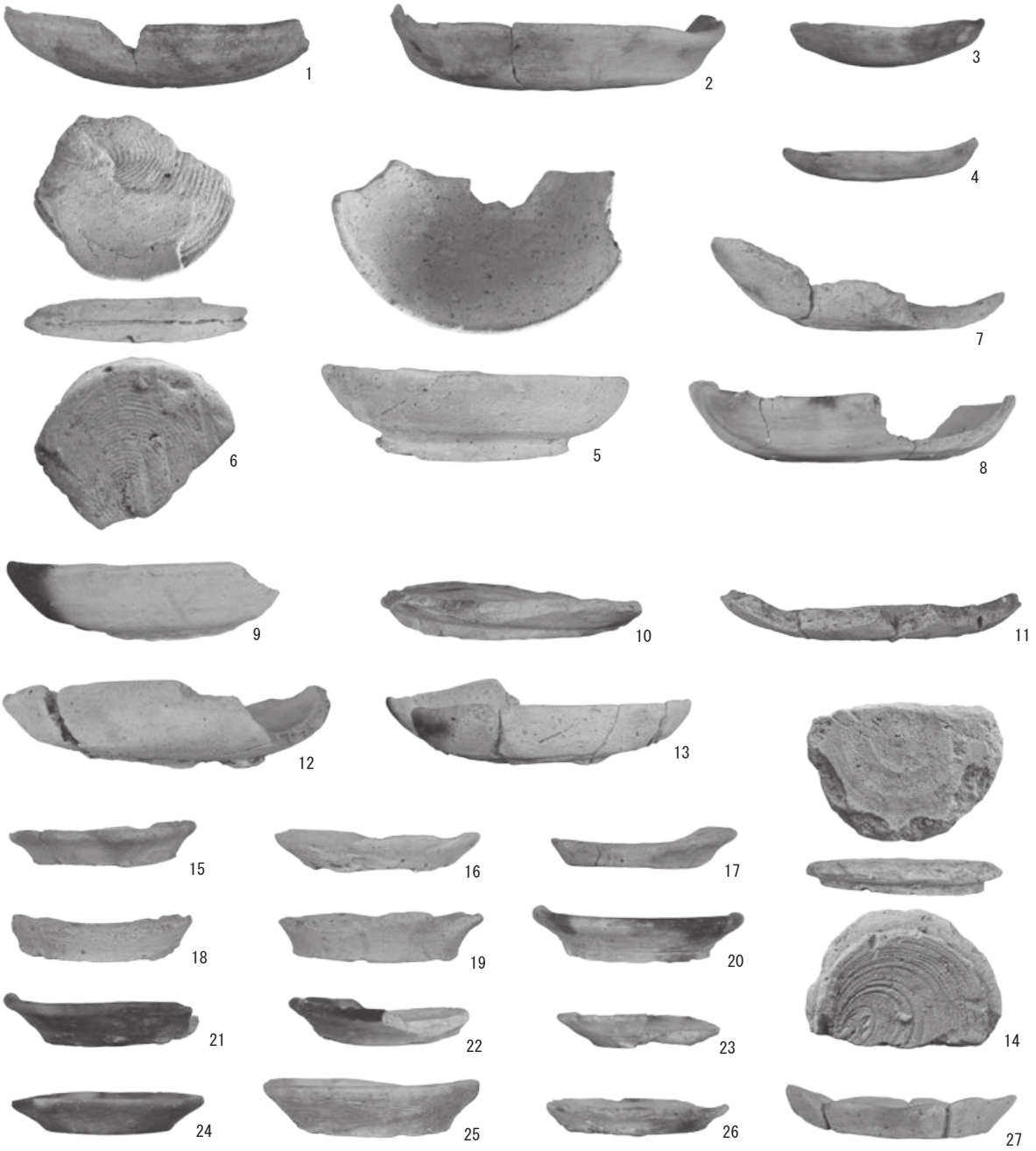
調査風景（南から）

柱穴検出状況（西から）

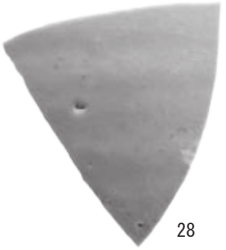
柱穴断面（北から）

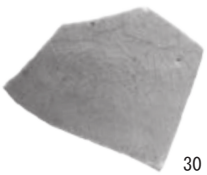
写真図版11　42次調査南区

かわらけ

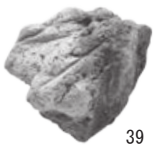


中国産陶磁器

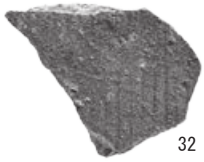




土壁



国産陶器



石製品

写真図版12　42次調査出土遺物

Ⅴ　工事立会調査の概要

電線共同溝本線部分の調査は（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって平成24年度に行われ（26次）、本線から各家庭へ延びる引き込み線部分及び地上機設置予定箇所において、前者は32次調査として後者は42次調査として平泉町教育委員会が実施した。しかし、道路部分は片側交互通行で交通規制しながら調査を行った関係上、道路のセンターライン部分の調査を行なえなかった。また、上水道・下水道の配管が入っている箇所、道路の交差点部分においても、調査を行っていない箇所があった。

当該箇所については、工事施工時の立会で遺構の有無を確認しながら調査を行った。また、岩手県教育委員会の依頼で地上機の設置予定箇所を中心に、事前に試掘調査を行い、その所見を基に設置予定箇所や掘削深度の調整を行った箇所もある。

このような調整や工事立会箇所が複数あったことから、本報告書内において立会箇所の履歴を第16表に記すことにした。

また、伽羅之御所跡23次調査では12世紀の堀跡（２号堀跡）が確認されているが、その後未調査であった部分に電線共同溝本体の施工が行われることになった。その際、岩手県教育委員会からの依頼に基づき、工事立会調査を行ったが、その時の調査概要について触れる。

２号堀跡は幅約５ｍ、深さ1.8～1.9ｍ（道路面から底面までは約2.4ｍ）を測る。本事業の施工では道路面から1.4ｍまでの掘削であるため、当該部分（幅約0.8ｍ）の確認を行った。

南側の上場は撹乱によって、中央付近で下水道の掘方によって撹乱されている箇所はあるものの全体的に良好な状態で残存していた。今回の立会では23次調査での２～４・５層を確認した。遺物が多く出土するとされていた堀下層に掘削は及ばないことが幸いであった。２層では近現代の陶器を確認し、４層ではかわらけが少量出土した。報告書では２～４層は12世紀の堆積土としていたが、断面観察及び出土遺物から２・３層については12世紀の堆積土ではなく、２層は近代の堆積層、３層は近世の堆積層である可能性が高いと考えられる。４層は従前どおり12世紀段階の堆積層と判断した。

立会箇所全景（北西から）

立会箇所断面（西から）

第16表　工事立会調査履歴

	立会日	遺跡名	場　所	所　　見
1	H28.11.24	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	立会地点は、12世紀の掘立柱建物が確認されており、遺構の位置確認を目的とした試掘調査を行った。 当該掘立柱建物を構成する柱穴１個を検出し、位置・検出面標高を確認し、試掘は終了した。
2	H28.12.9	無量光院跡	平泉字花立124地先	無量光院跡西側土塁に隣接する堀跡推定地において、地上機設置が予定されており、地下遺構への影響を極少とするため、堀の法面位置確認のためのトレンチ調査を行った。 地表面から約50cm下において、当該堀跡の法面及び埋土を検出し、位置･検出面標高を確認し、試掘は終了した。
3	H29.1.27	伽羅之御所跡		支障無
4	H29.2.1	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	伽羅之御所跡第22次調査では、12世紀の掘立柱建物跡（１号掘立柱建物跡）が確認されている。同調査の際に未調査であった道路敷内で柱穴の存在が想定された箇所での試掘を行った。当該掘立柱建物を構成する柱穴は確認されず、地山面標高を確認した。
5	H29.2.8	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	伽羅之御所跡第22次１号掘立柱建物跡を構成する柱穴Ｐ252･254を保全するため、検出位置及び標高を再確認し、施工位置を再調査するための試掘調査を行った。
6	H29.9.26	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	本文参照（44頁）
7	H29.9.29～10.2	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	伽羅之御所跡第22次２号堀跡周辺の工事立会を行った。上下水道の掘り方による撹乱が一部確認されたものの、遺構は未検出。
8	H29.10.19・20	伽羅之御所跡	平泉字伽羅楽	遺構無・遺物無
9	H29.12.21	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構無・遺物無
10	H30.7.17～20	無量光院跡	平泉字柳御所157周辺	遺構無・遺物無
11	H30.9.28～10.4	無量光院跡	平泉字花立地内	既存の側溝撤去時に立会を行った。明確な遺構は確認されていないが、無量光院跡の整地層を検出した。42次調査北区南東では表土直下、同南西側では表土下30～50cmで、32次26区南西側では、表土（層厚80cm）下から、整地層を検出した。西側に向かうについて整地層の確認面が低くなる傾向を確認した。
12	H30.10.9～10.12	衣関遺跡	平泉字衣関地内	遺構無・遺物無
13	H30.10.17	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構無・遺物無
14	H30.10.23	無量光院跡	平泉字柳御所地内	遺構無・遺物無
15	H30.10.24	無量光院跡	平泉字花立地内	42次調査南区の道路端付近の立会。現地表面から80cmまで撹乱もしくは路盤が堆積している。その直下から現在の道路側溝から約50～100cmの範囲で近世～近代道路側溝のプランを確認した。
16	H30.10.30	無量光院跡	平泉字花立地内	42次調査南調査区付近の試掘。
17	H30.10.30	無量光院跡	平泉字柳御所地内	史跡外の地上機設置予定箇所の試掘。近代以降の溝を検出。
18	H30.10.30	無量光院跡	平泉字柳御所地内	42次調査北区の試掘。整地層を確認したため、本調査に切り替え対応することとなった。
19	H30.10.30	無量光院跡	平泉字柳御所地内	遺構・遺物無
20	H30.11.27	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
21	H30.12.11	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
22	H31.1.15	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
23	H31.2.20	伽羅之御所跡	平泉字泉屋地内	遺構・遺物無
24	R 1.12.10～16	衣関遺跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
25	R 2.9.8	衣関遺跡	中尊寺道踏切脇	遺構・遺物無
26	R 2.9.15～16	伽羅之御所跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
27	R 3.2.3	伽羅之御所跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無

Ⅵ　まとめ

今回の調査では、これまで未実施であった電線共同溝本線から各家庭へ延びる引き込み線部分（32次）及び地上機設置予定箇所（42次）においての調査を行った。
以下、次数ごとにまとめを記す。

（１）32次調査

32次調査においては、９・10区では12世紀の整地層を確認したが、調査区の大半では近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていた。同様に池岸及び排水部分に近い調査区（14・19～21区）において無量光院跡の園池に伴う遺構が検出されることが期待されたが、近代以降の道路側溝によって失われている状況を確認した。今回の調査地点が現在の道路側溝に近接しており、近代以降連綿と側溝が踏襲されていたともいえる成果である。また、無量光院跡は北側を猫間が淵の低地と接しているが、北側縁辺部は北西隅に向かうにつれて徐々に県道に近くなり、26・27区では近代以降の間知石が検出され、12世紀段階での北西端は県道北側に位置する様相がうかがえた。26次調査では西側土塁西側の堀が県道下まで延びていることが確認されているが、この堀がどの位置で猫間が淵と接しているかが課題となっており、北西隅における無量光院跡の縁辺と西側土塁脇にある堀との位置関係を整理する必要がある。

（２）42次調査

検出遺構は溝１条、整地層、柱穴１個である。
〈北区〉全面で無量光院跡の整地層を検出し、その下層から溝跡（ＳＤ１）を検出した。地山面は現在の地形と異なり、南から北へ傾斜する様相を呈していた。その地山面に①溝及び整地層を設け、②無量光院跡造営時に溝を埋める形で大規模に整地した状況を確認した。帰属時期は①は無量光院跡以前、②は無量光院跡造営時（12世紀後半）と推定される。

なお、整地層の上面は現在の地形に近い北から南側に堆積する状況を呈していた。このことは調査区北側に位置する北側土塁に伴うものなのか、後世の改変によるものか検討を要する。また、西側土塁にも近接した位置であるため土塁と整地が一連で行われたかなど、今後検証していく必要があると思われる。
〈南区〉柱穴１個を確認した。全体的に撹乱が著しく残存状況は不良である。

報 告 書 抄 録

ふ り が な	とくべつしせきむりょうこういんあとだいさんじゅうに・よんじゅうにじはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	特別史跡無量光院跡第32・42次発掘調査報告書
副 書 名	一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査
巻　　次	
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書
シリーズ番号	第143集
編 著 者 名	島原弘征　鈴木江利子
編 集 機 関	平泉町教育委員会
所 在 地	〒029-4102　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2　電話（0191）46-2111㈹
発行年月日	西暦2023年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
むりょうこういんあと 無量光院跡	いわてけんにしいわいぐん 岩手県西磐井郡 ひらいずみちょう 平 泉 町 ひらいずみあざはなだて 平 泉 字花立地内	03402	NE76-1007	38° 59′ 33″	141° 07′ 02″	20141109～1212 20190208～0326	27㎡ 20㎡	一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
無量光院	寺院	12世紀	整地層 溝 柱穴	かわらけ 中国産磁器 国産陶器 羽口 土壁 鉄滓 植物遺体 漆椀 石製品 粘土塊	

要　　約	県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝工事に先立ち、地上機及び引き込み線部分の事前調査（32次・42次）を収録している。調査の結果、平成27年度の32次調査では現在の県道脇から近代の道路側溝を、平成30年度の42次調査において無量光院造営時の整地層と無量光院跡以前の溝を確認した。

岩手県平泉町文化財調査報告書第143集

特別史跡無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

印　刷　令和５年３月27日
発　行　令和５年３月29日

編集・発行　平泉町教育委員会
〒029-4102　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地２
電話　（0191）46-2111（代）　FAX　（0191）46-2015

印　　刷　川嶋印刷株式会社
〒029-4194　岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21
電話　（0191）46-4161

©　平泉町教育委員会2023